

大分川水系河川整備基本方針の変更について ＜参考資料＞

令和7年9月5日

国土交通省 水管理・国土保全局

①流域の概要

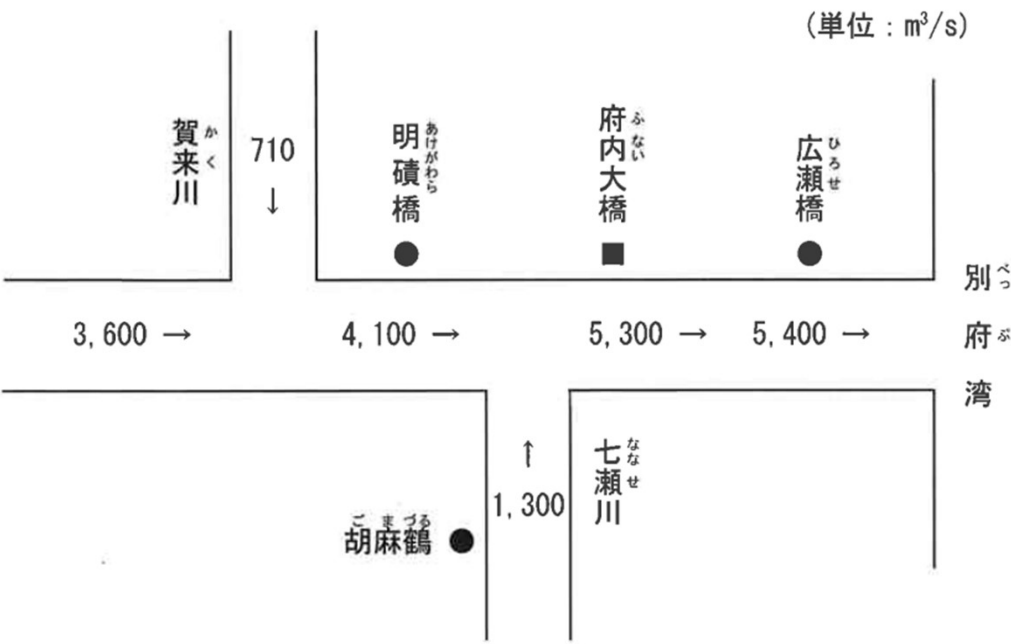
○ 河川整備計画(平成18年11月策定)の目標流量は、昭和28年6月洪水と同規模の洪水とし、府内大橋地点では5,300m³/s(河道配分流量4,900m³/s)とした。

〈河川整備計画の概要〉

大分川水系河川整備計画(平成18年11月)

基準地点の目標流量

基準地点	河川整備計画において達成される目標流量	河川の整備によって達成される流量
府内大橋	5,300m ³ /s	4,900m ³ /s



河川整備の基本理念

「人・水・歴史の調和、都市と自然の共存、
豊かないのちが輝く大分川」

河川整備の3つの柱

1

治水

安全で安心して暮らせる川づくり

洪水を安全に流すことができる河道の断面面積を確保して治水安全度の向上を図るとともに、内水被害[※]の軽減を目指します。

また、洪水時の被害を最小限に抑えるために、円滑な情報収集・提供など危機管理体制の充実を目指します。

※8ページ参照

詳しくは7ページへ▶

2

利水

川の恵みを大切にする川づくり

水道用水や農業用水などの水需要の増大に対し、適正な水利用を確立するため、水利用者と関係機関との連携を目指します。

また、水不足の解消を図り水資源開発による安定的な水源の確保や良好な水質の維持改善を目指します。

詳しくは11ページへ▶

3

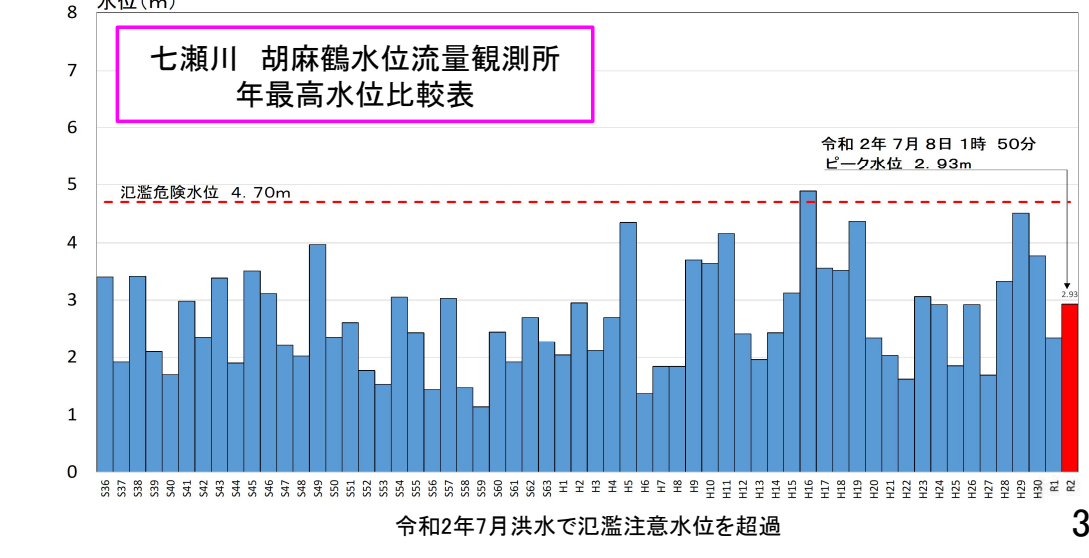
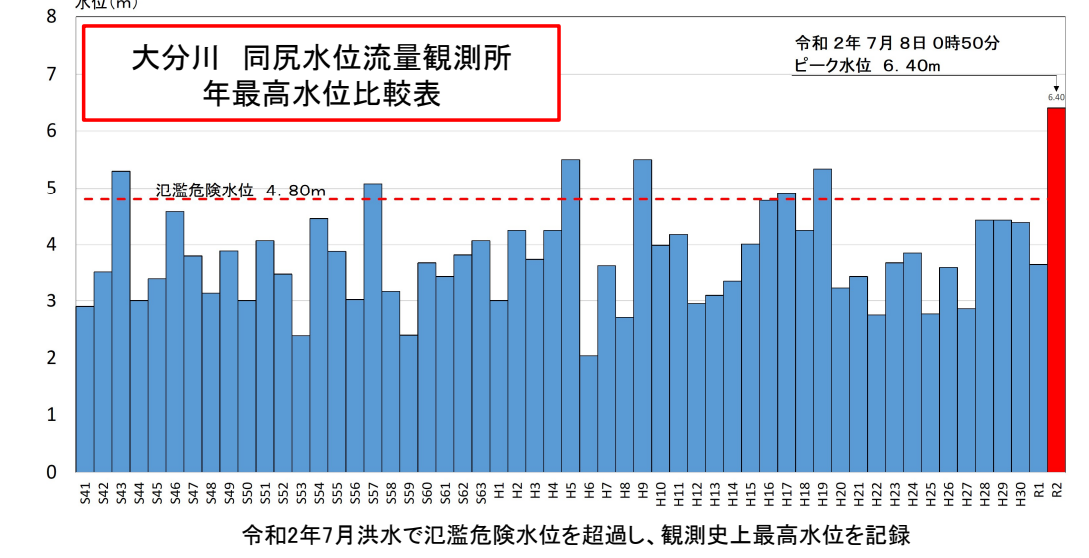
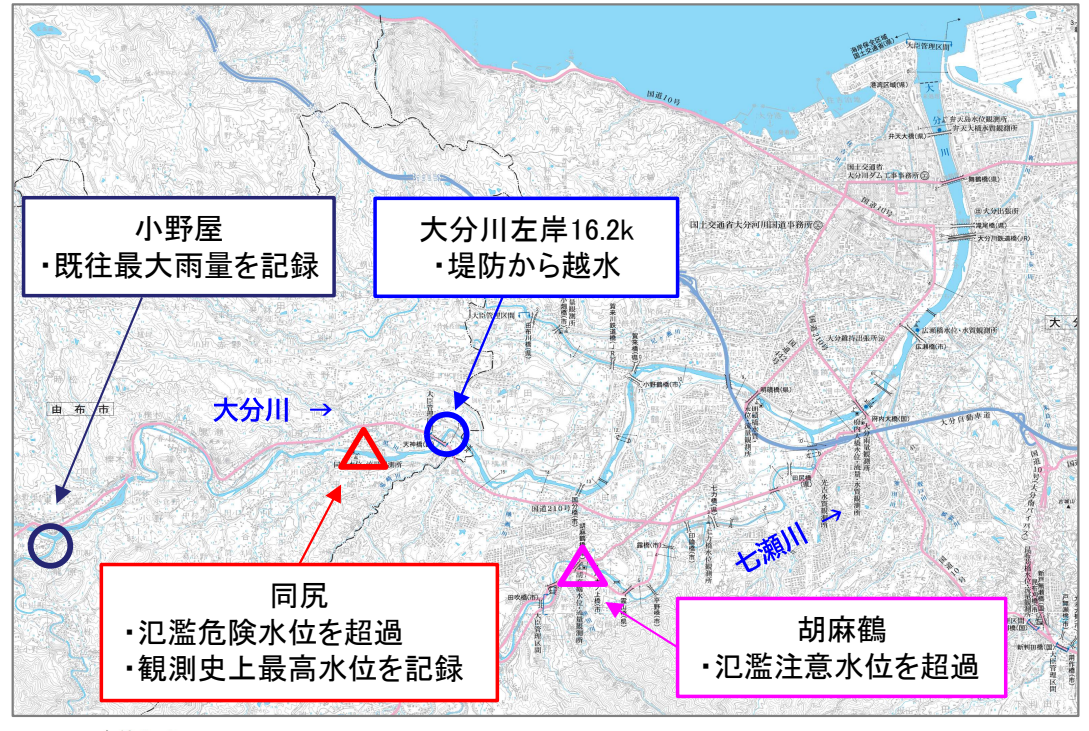
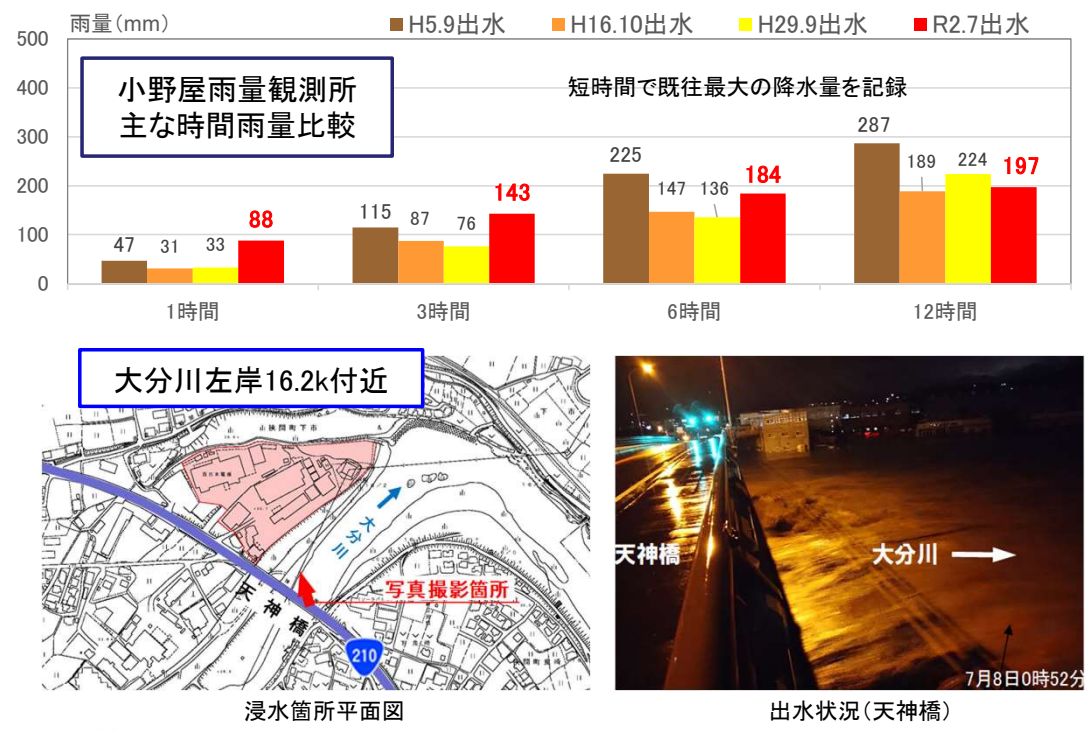
環境

安らぎと水と緑にふれあう川づくり

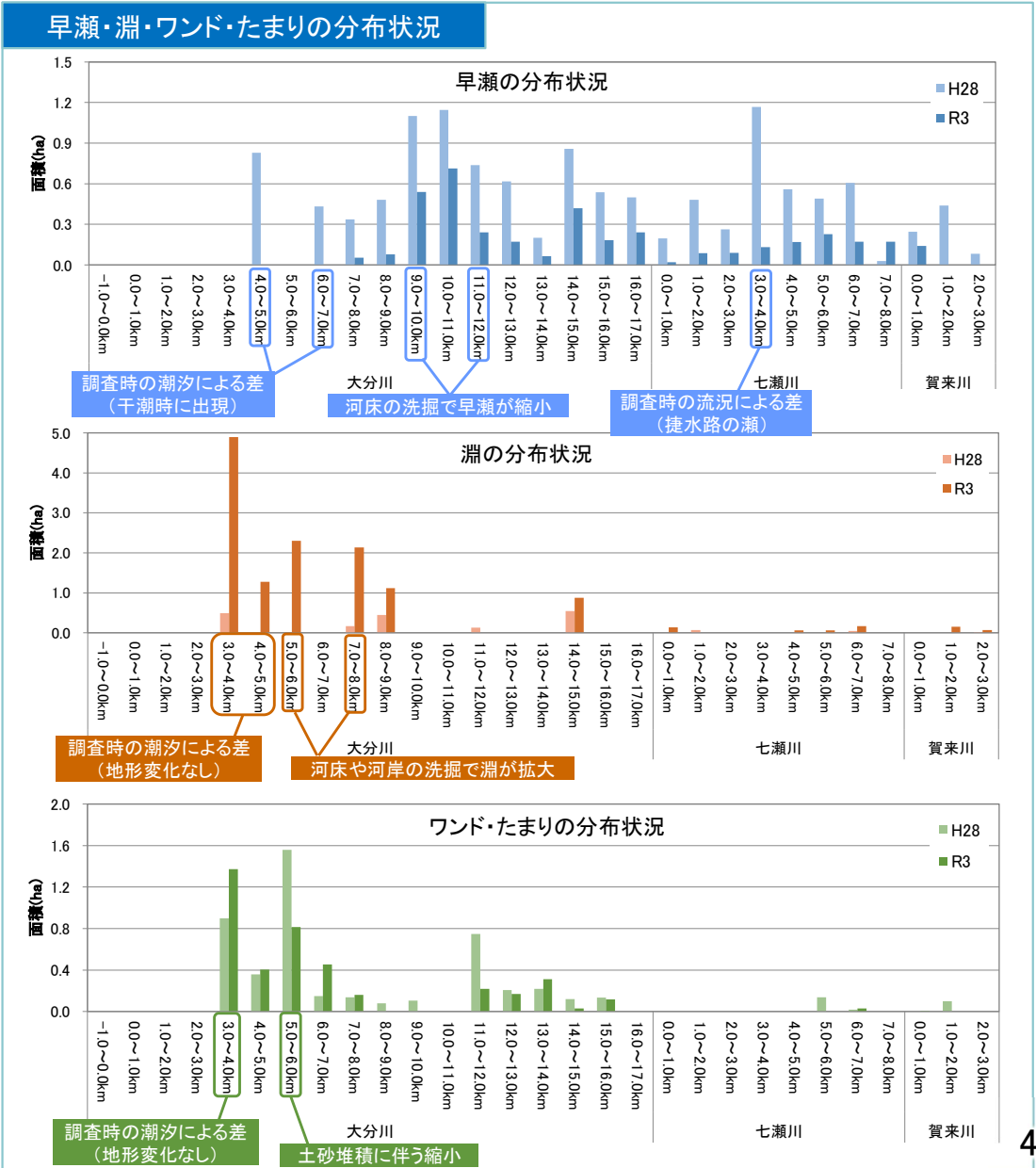
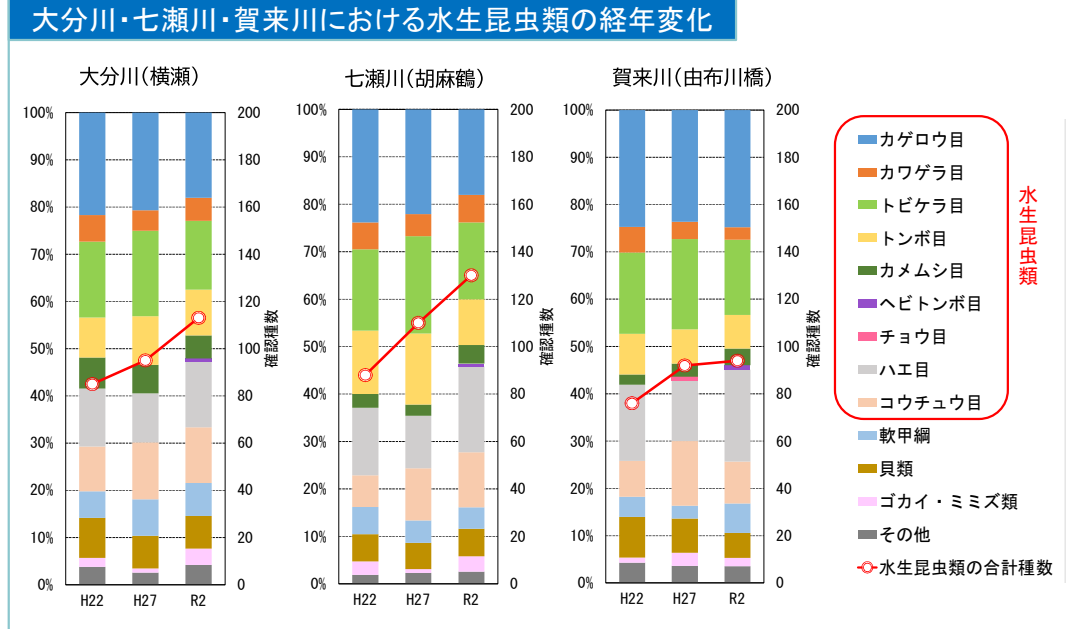
多様な動植物に配慮した自然環境の保全に努めるとともに、都市部における水と緑のオープンスペースとして、地域住民と行政が一体となり連携しながら、水と緑の安らげる空間づくりを目指します。

詳しくは13ページへ▶

- 令和2年7月7日～8日に、梅雨前線の活発な活動により小野屋雨量観測所において既往最大となる1時間降水量88mm、48時間降水量430mmを記録した。
- 大分川同尻水位流量観測所において氾濫危険水位を超過し観測史上最高水位を記録、七瀬川の胡麻鶴水位流量観測所において氾濫注意水位を超過した。
- 大分川左岸16.2k(大分県由布市挾間町下市地区)において堤防から越水し事業所が浸水した。



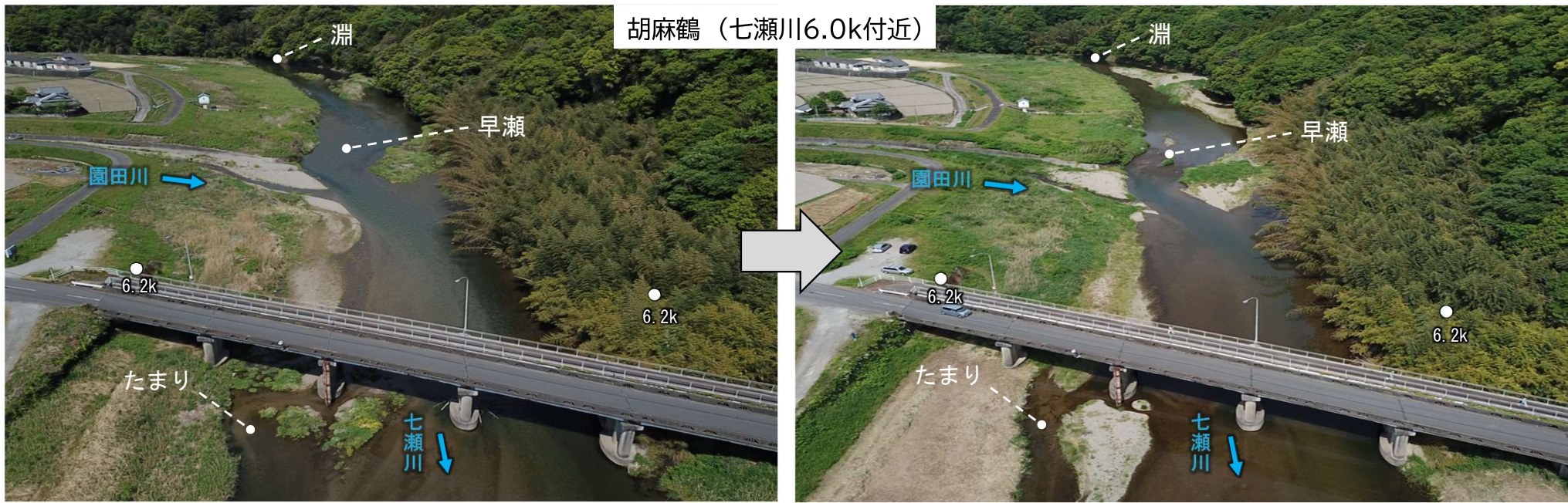
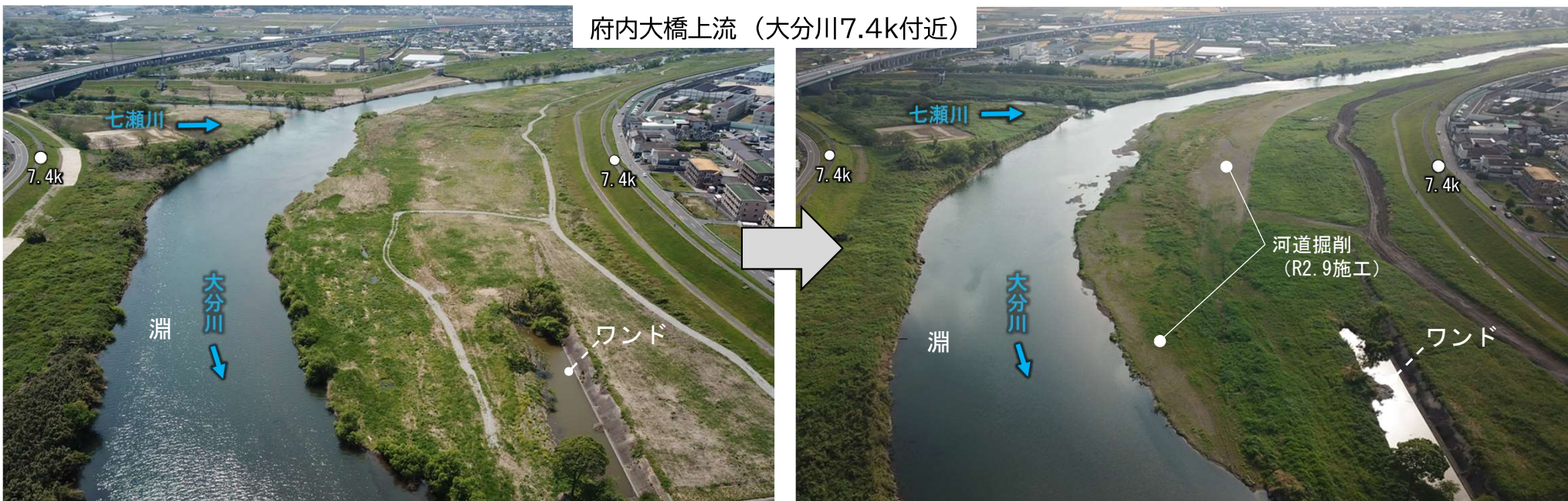
- 大分川・七瀬川を代表する魚種であるアユの産卵場(早瀬)において位置や形状の変化が確認されるものの、継続的にアユの産卵が確認されており、令和2年7月洪水以降も大分川水系としてアユの産卵環境は維持されている。
- 河川生態系を下位で支える水生昆虫類は、令和2年7月洪水以降もおおむね増加傾向にあり、安定した河川環境が維持されている。
- 一部区間では河床低下に伴い早瀬の縮小や淵の拡大が見られるほか、ワンド・たまりは不安定であるものの、出水後も全体的に多様な環境が維持されている。



○ 多様な水環境を有する府内大橋上流(大分川7.4k付近)や胡麻鶴橋(七瀬川6.0k付近)においても、令和2年7月洪水後の水環境は維持されている。

出水前 (R2. 4撮影)

出水後 (R3. 5撮影)



②基本高水のピーク流量の検討

棄却された実績引き伸ばし降雨の再検証

大分川水系

- 気候変動による降雨パターンの変化(特に小流域集中度の変化)により、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形の発生が十分予想される場合がある。このため、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形を、当該水系におけるアンサンブル降雨波形による降雨パターンと照らし合わせる等により再検証を実施した。
- この結果、従来の手法で棄却した5洪水は、アンサンブル予測降雨から推定される地域分布、短時間降雨分布の雨量比を上回ることが確認できた。
- これにより、従来の手法で棄却した降雨波形は、将来的にも生起し難いと判断できることから、計画対象洪水への追加は行わなかった。

棄却洪水におけるアンサンブル将来降雨波形を用いた検証



A流域等の流域平均雨量

(A+B+C+D)流域平均雨量

棄却した引き伸ばし降雨波形も同様に比率を求め、実績引き伸ばし波形の比率がアンサンブル予測降雨波形による比率と大きく逸脱していないか確認する等のチェックを行う

小流域のチェック

d2PDF(将来気候)から計画規模の降雨量近傍のアンサンブル降雨波形を抽出し、各波形について、継続時間内の小流域の流域平均雨量/流域平均雨量を求める(各小流域の流域全体に対する雨量の比率)

洪水名		府内大橋 上流域 平均		本川上流域 (142.0km ²)		阿蘇野川・芹川流域 〔中流右支川域〕 (206.8km ²)		賀来川等流域 〔中下流左支川域〕 (145.2km ²)		七瀬川流域 〔下流右支川域〕 (186.0km ²)	
項目	d2PDF アンサンブル	予測雨量 (mm/9h)	予測雨量 (mm/9h)	府内大橋 雨量に 対する 比率	予測雨量 (mm/9h)	府内大橋 雨量に 対する 比率	予測雨量 (mm/9h)	府内大橋 雨量に 対する 比率	予測雨量 (mm/9h)	府内大橋 雨量に 対する 比率	
将来実験	HFB_2K_CC_m105	324.13	315.98	0.97	345.07	1.06	286.1	0.88	346.1	1.07	
	HFB_2K_GF_m101	348.91	169.63	0.49	517.76	1.48	221.5	0.63	433.4	1.24	
	HFB_2K_MP_m101 ①	350.83	371.23	1.06	339.6	0.97	390.4	1.11	291.7	0.83	
	HFB_2K_MP_m101 ②	321.85	357.73	1.11	313.17	0.97	350.3	1.09	252.4	0.78	
	HFB_2K_MR_m101	339.29	316.75	0.93	331.42	0.98	347.9	1.03	372.8	1.10	
	HFB_2K_MR_m105	357.03	333.58	0.93	376.45	1.05	347.6	0.97	363.5	1.02	

：最大比率

予測降雨波形	本川上流域	阿蘇野川・芹川流域	賀来川等流域	七瀬川流域
最大	1.11	1.48	1.11	1.24

棄却された 実績洪水	府内大橋上流域平均			本川上流域 (142.0km ²)		阿蘇野川・芹川流域 〔中流右支川域〕 (206.8km ²)		賀来川等流域 〔中下流左支川域〕 (145.2km ²)		七瀬川流域 〔下流右支川域〕 (186.0km ²)	
	実績雨量 (mm/9h)	計画雨量 (mm/9h)	拡大率	拡大後 雨量 (mm/9h)	府内大橋 計画雨量 に対する 比率	拡大後 雨量 (mm/9h)	府内大橋 計画雨量 に対する 比率	拡大後 雨量 (mm/9h)	府内大橋 計画雨量 に対する 比率	拡大後 雨量 (mm/9h)	府内大橋 計画雨量 に対する 比率
S. 38. 8. 9	170.4	337	1.978	498.5	1.48	257.1	0.76	296.9	0.88	335.9	0.67
S. 41. 9. 9	170.0	337	1.982	376.2	1.12	289.6	0.86	324.0	0.96	388.9	1.03
S. 54. 9. 4	192.3	337	1.752	395.4	1.17	331.7	0.98	405.3	1.20	420.5	1.06
H. 18. 8. 18	190.5	337	1.769	340.8	1.01	379.8	1.13	409.3	1.21	375.0	1.10
R. 2. 7. 6	163.9	337	2.056	323.2	0.96	348.5	1.03	324.0	0.96	277.9	0.86

：アンサンブル予測降雨波形と比較しても生起し難いと判断される比率

短時間降雨のチェック

d2PDF(将来気候)から計画規模の降雨量近傍のアンサンブル降雨波形を抽出し、各波形について、短時間(例えば洪水到達時間やその1/2の時間)の流域平均雨量/継続時間内の流域平均雨量を求める(短時間雨量と継続時間雨量との比率)

洪水		府内大橋上流域平均				
項目	d2PDF アンサンブル	①9時間 予測 降雨 (mm/9h)	②6時間 予測 降雨 (mm/6h)	比率 ②/①	③3時間 予測 降雨 (mm/3h)	比率 ③/①
将来実験	HFB_2K_CC_m105	324.1	225.3	0.69	124.3	0.38
	HFB_2K_GF_m101	348.9	212.1	0.61	144.4	0.41
	HFB_2K_MP_m101 ①	350.8	258.5	0.74	155.5	0.44
	HFB_2K_MP_m101 ②	321.9	265.6	0.83	187.8	0.58
	HFB_2K_MR_m101	339.3	325.0	0.96	214.0	0.63
	HFB_2K_MR_m105	357.0	276.3	0.77	160.6	0.45

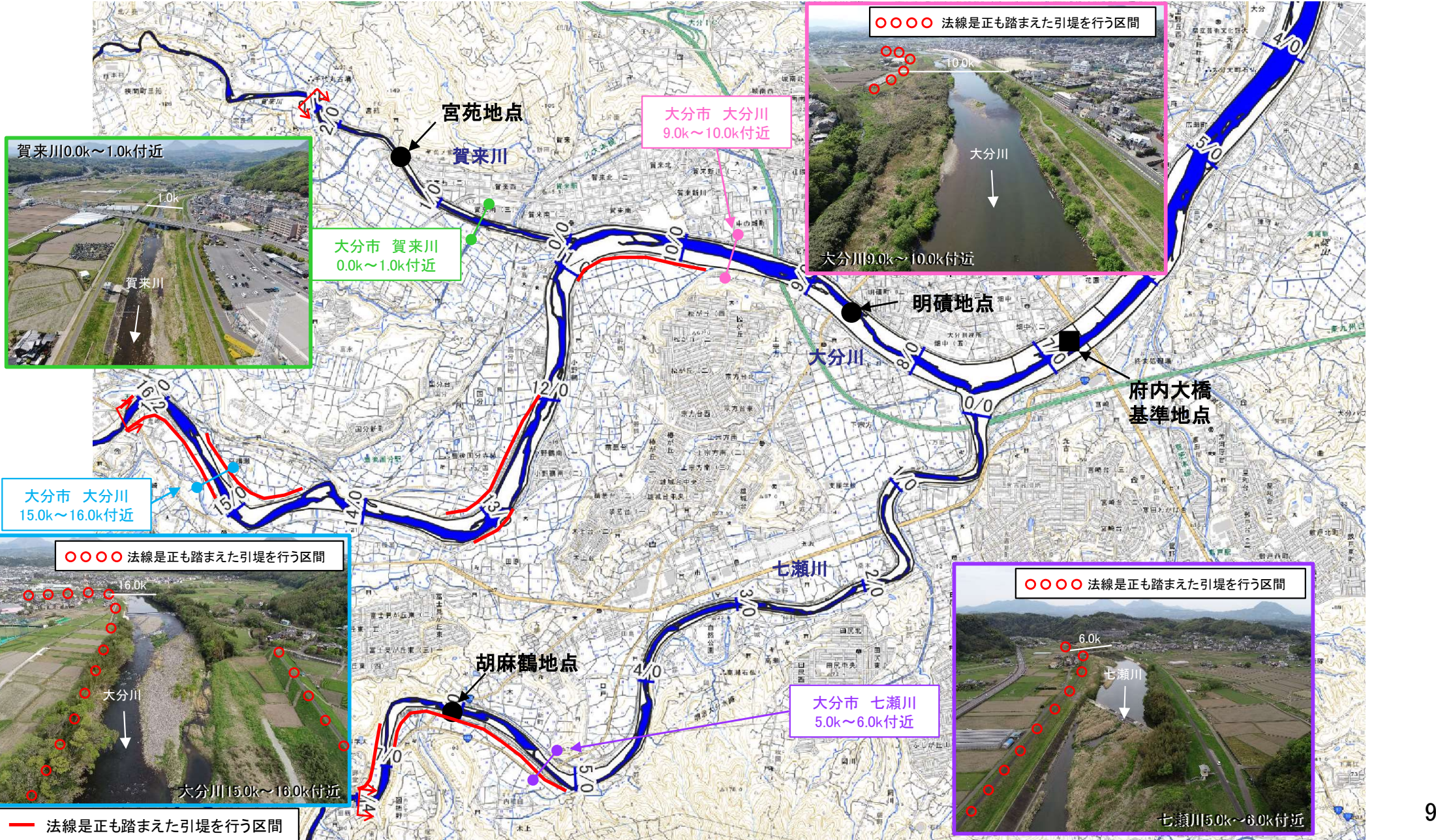
最大比率

予測降雨波形	府内大橋上流域平均
最大	0.96 0.63

棄却された 実績洪水	府内大橋上流域平均						
	実績雨量 (mm/9h)	① 計画雨量 (mm/9h)	拡大率	② 計画雨量 拡大後 6時間雨量 (mm/6h)	比率	③ 計画雨量 拡大後 3時間雨量 (mm/3h)	比率
S. 38. 8. 9	170. 4	337	1. 978	253. 5	0. 75	141. 2	0. 42
S. 41. 9. 9	170. 0	337	1. 982	318. 8	0. 95	213. 1	0. 63
S. 54. 9. 4	192. 3	337	1. 752	297. 2	0. 88	193. 1	0. 57
H. 18. 8. 18	190. 5	337	1. 769	279. 5	0. 83	197. 8	0. 59
R. 2. 7. 6	163. 9	337	2. 056	303. 3	0. 90	219. 4	0. 65

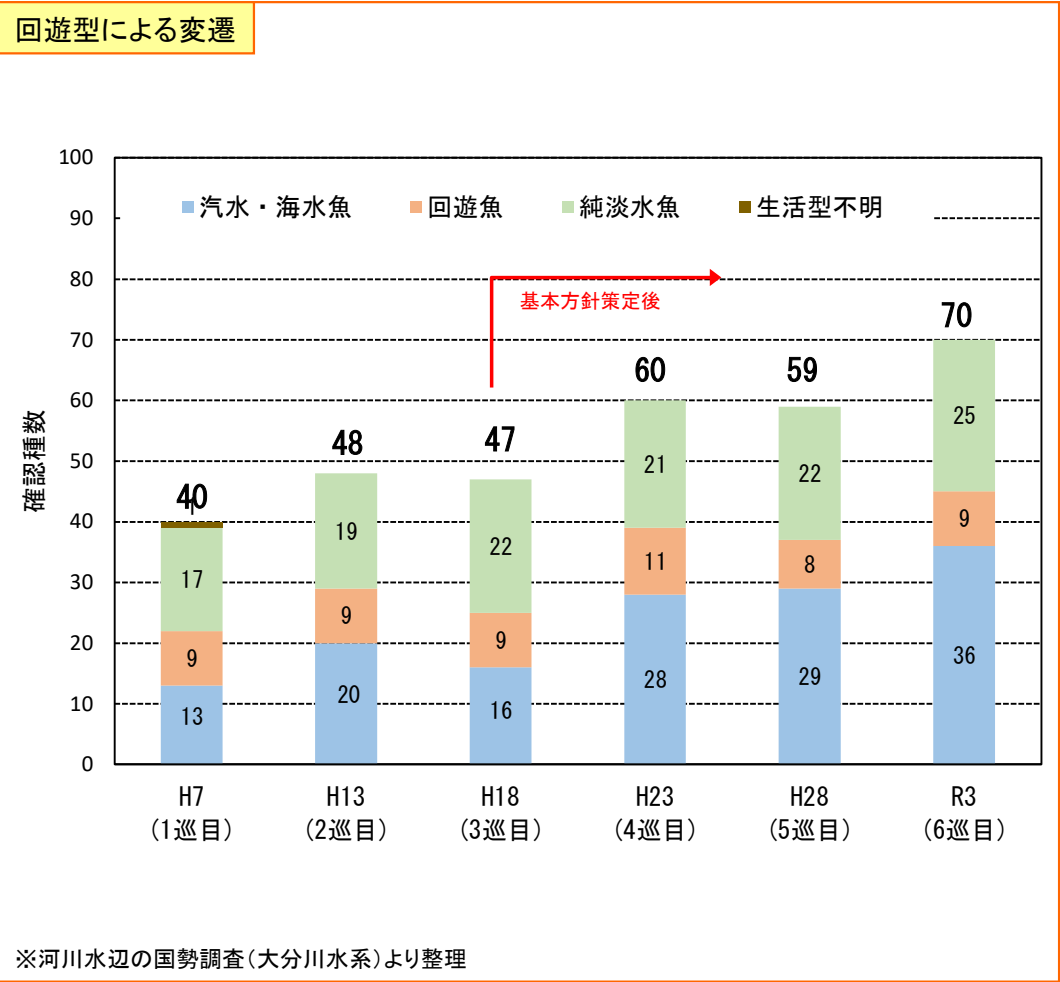
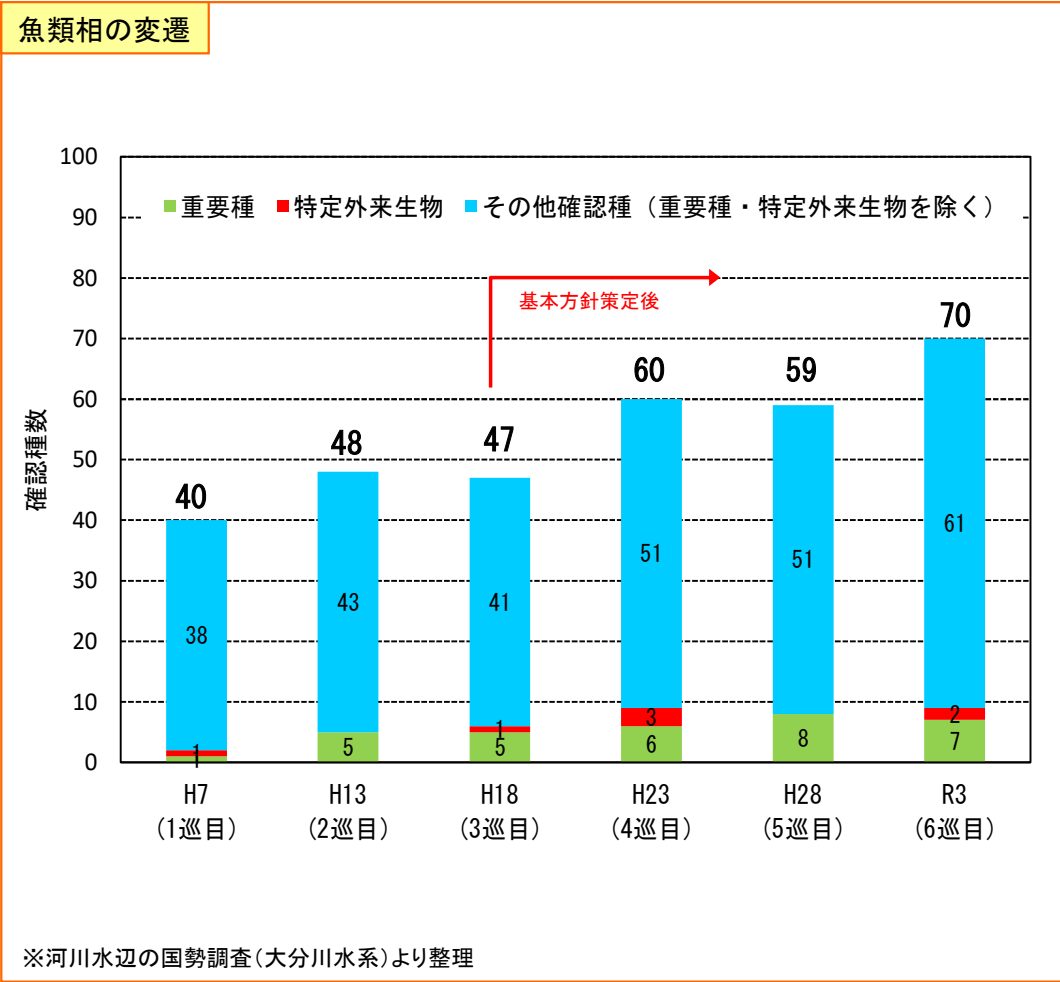
③計画高水流量の検討

- 既設構造物への影響を考慮し、従来の計画河床高程度までの河道掘削を基本とする。
- 河積が十分確保できない区間については、堤防の安全性や河川利用状況を考慮した上で、低水路の拡幅、法線是正も踏まえた引堤を実施する。
- これにより、基準地点府内大橋において5,400m³/s相当の流下能力が確保可能なことを確認。



⑤河川環境・河川利用についての検討

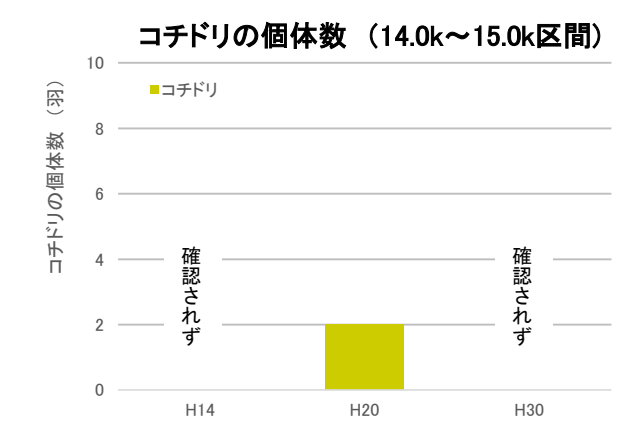
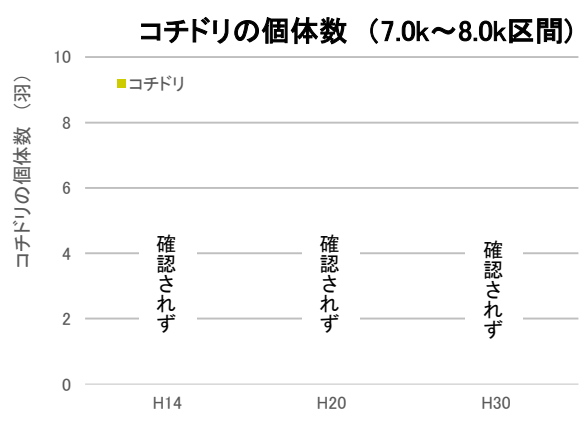
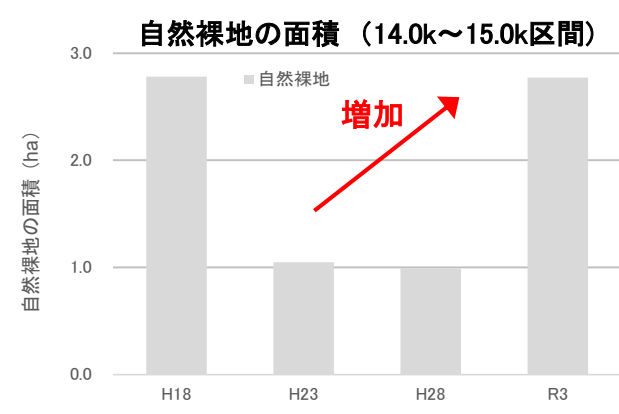
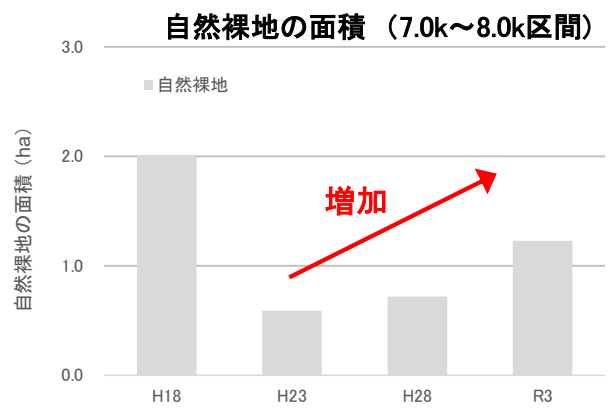
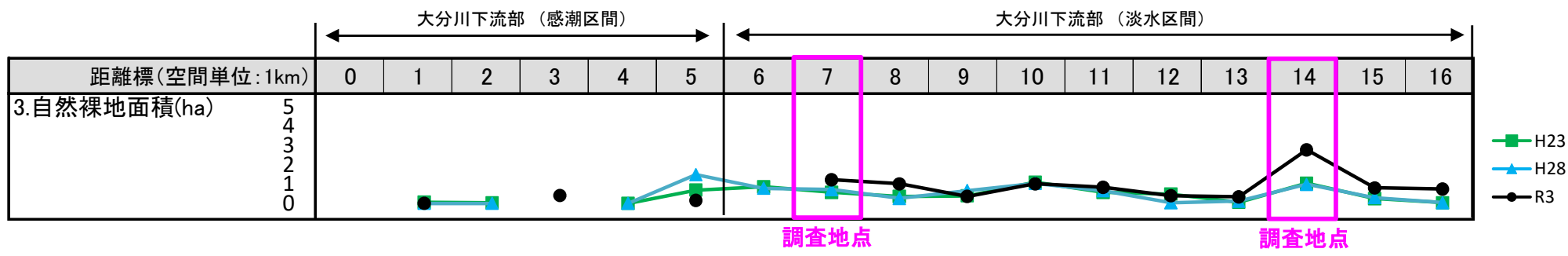
- 魚類について、重要種・外来種等で分類した場合と回遊型による分類を実施した。
- 基本方針策定後、魚類の確認種数は増加傾向にあり、回遊型による分類によると、純淡水魚と回遊魚に大きな変化はなく、主に汽水・海水魚が増加している。
- 汽水・海水魚のうち、遊泳魚については偶発性が高く、河口域への出現は海域の状況にも大きく左右される。大分川において汽水・海水魚の出現種数が増加している理由は現在のところ不明であり、河川水辺の国勢調査により継続してモニタリングしていく。



○ 大分川下流部ではほぼ全区間で自然裸地が安定して分布しており、国勢調査地点の7.0k～8.0k区間と14.0k～15.0k区間では増加傾向が見られる。

○ 自然裸地を代表的する重要種として、コチドリについて個体数の経年変化を確認した結果、7.0k～8.0k区間では確認されておらず、14.0k～15.0k区間では平成20年度に2個体のみの確認で、安定した利用は見られていない。

大分川下流部(淡水区間)に生息する重要種と自然裸地の経年変化



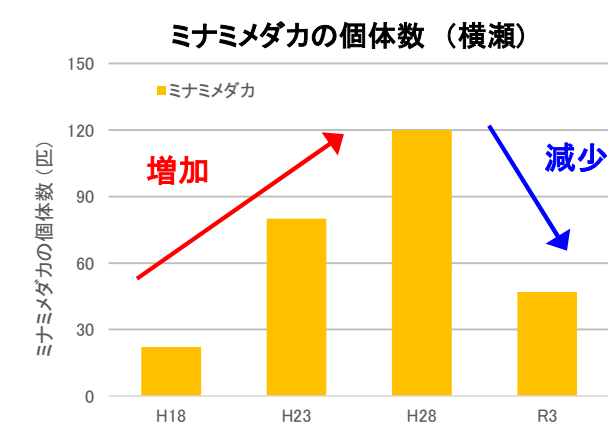
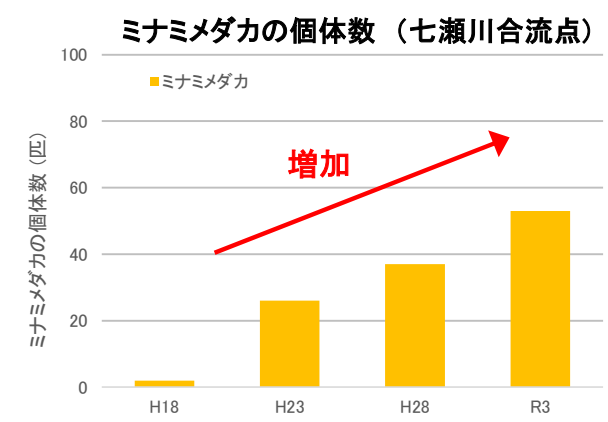
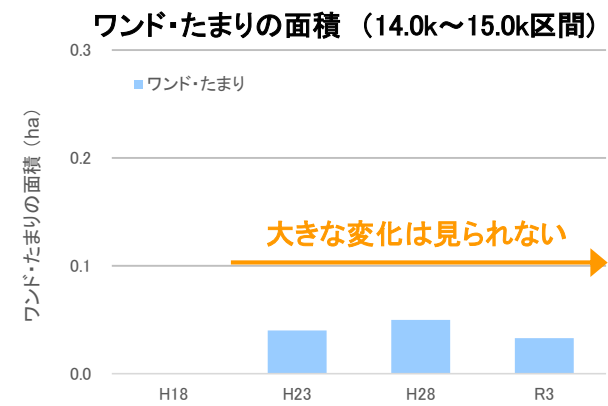
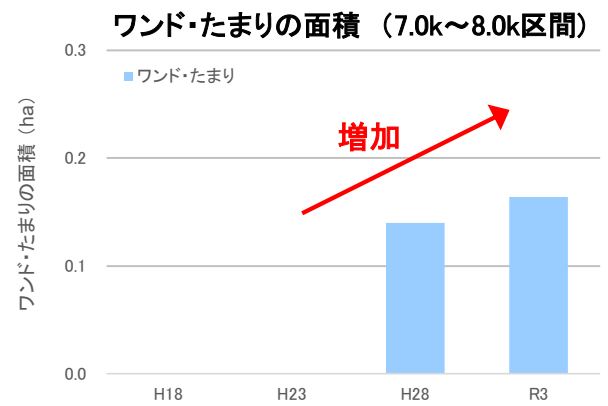
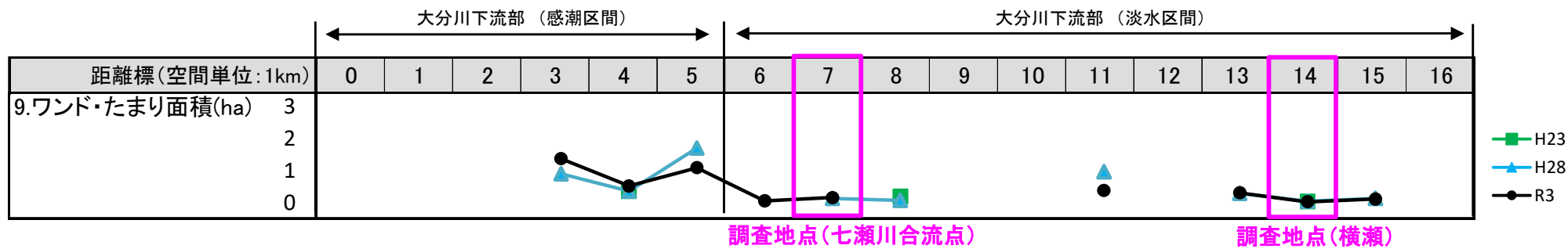
※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4巡分(15年～20年)の変化を整理した

※個体数は、国勢調査地点で確認された個体数の合計を示す (H14:ラインセンサス法、H20・H30:スポットセンサス法)

調査年度	H14	H20	H30
鳥類	●	●	●

- 大分川下流部では断続的にワンド・たまりが安定して分布しており、国勢調査地点の7.0k～8.0k区間は増加傾向にあり、14.0k～15.0k区間では大きな変化は見られない。
- ワンド・たまりを代表する重要種として、ミナミメダカについて個体数の経年変化を確認した結果、7.0k～8.0kでは増加しており、14.0k～15.0k区間では平成28年度調査まで増加していたが、令和3年度調査では減少している。

大分川下流部(淡水区間)に生息する重要種とワンド・たまりの経年変化

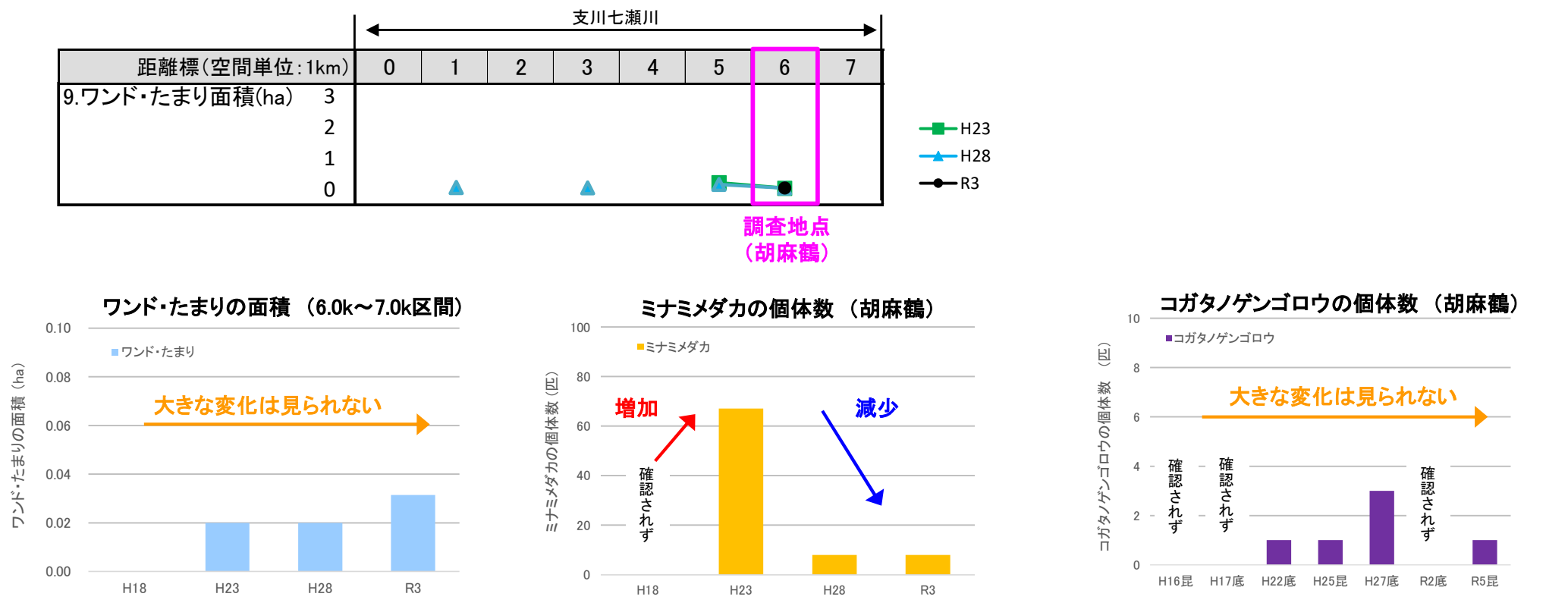


※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4巡分(15年～20年)の変化を整理した
※個体数は、国勢調査地点(七瀬川合流点、横瀬)で確認された個体数の合計を示す

調査年度	H18	H23	H28	R3
魚類	●	●	●	●

- 支川七瀬川ではワンド・たまりが点在して分布しており、国勢調査地点の6.0k～7.0k区間では大きな変化は見られない。
- ワンド・たまりを代表する重要種として、ミナミメダカとコガタノゲンゴロウについて個体数の経年変化を確認した結果、ミナミメダカは平成23年度に多数確認されたが平成28年度以降は減少し、コガタノゲンゴロウは個体数は多くないものの、平成22年以降は比較的安定して確認されている。

支川七瀬川に生息する重要種とワンド・たまりの経年変化



※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4巡分(15年～20年)の変化を整理した

※個体数は、国勢調査地点(胡麻鶴)で確認された個体数の合計を示す

※コガタノゲンゴロウは底生動物と陸上昆虫類における確認個体数を整理した。

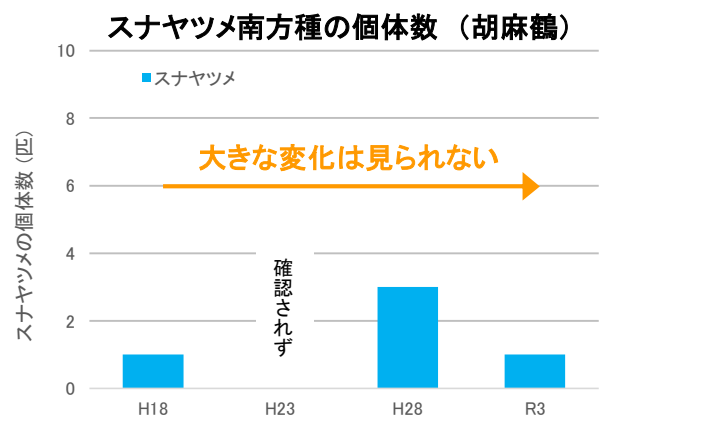
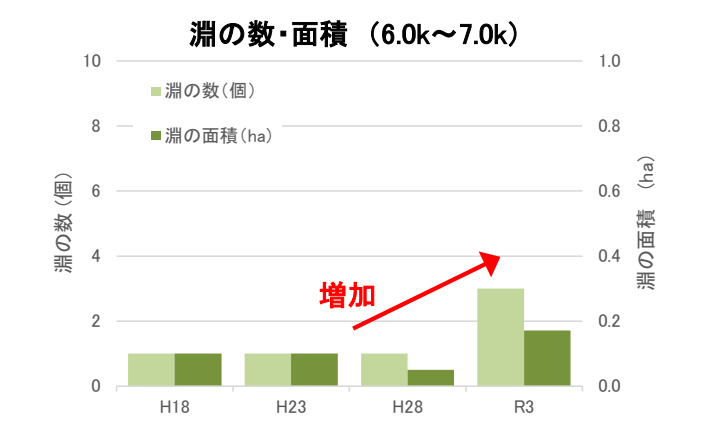
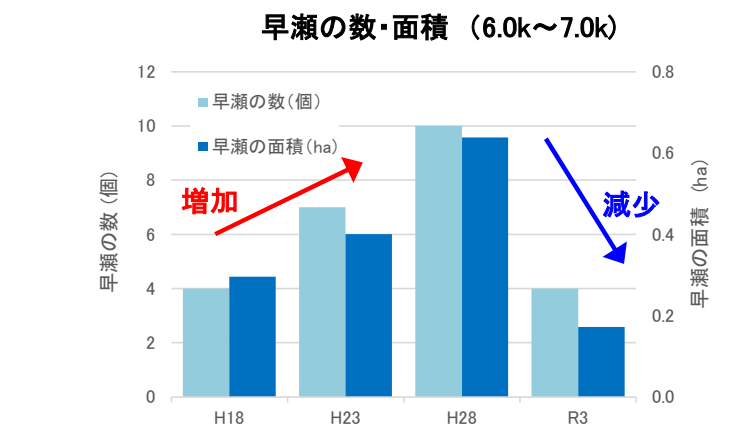
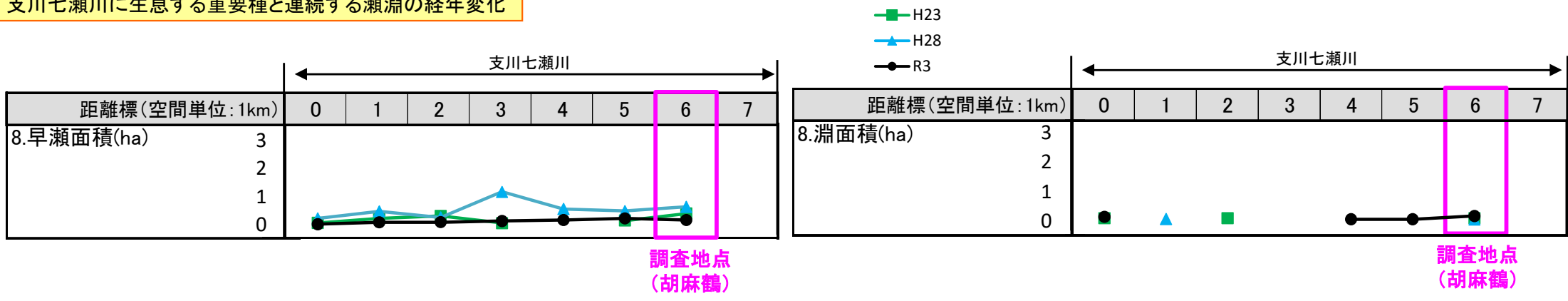
調査年度	H16	H17	H18	H22	H23	H25	H27	H28	R2	R3	R5
魚類			●		●			●		●	
底生		●		●			●		●		
昆虫	●					●					●

○ 支川七瀬川ではほぼ全区間に早瀬が安定して分布しており、国勢調査地点の6.0k～7.0k区間では平成28年度まで増加し、令和3年度には減少した。

○ 淵は断続的に安定して分布しており、国勢調査地点の6.0k～7.0k区間では令和3年度に増加した。

○ 連続する瀬淵を代表する重要種として、スナヤツメ南方種について個体数の経年変化を確認した結果、わずかな個体数が安定して確認されている。

支川七瀬川に生息する重要種と連続する瀬淵の経年変化



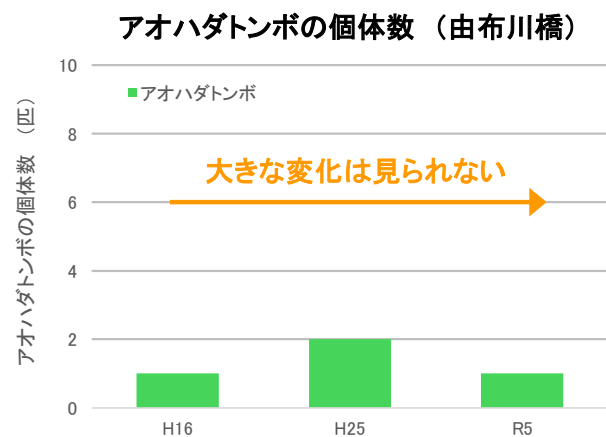
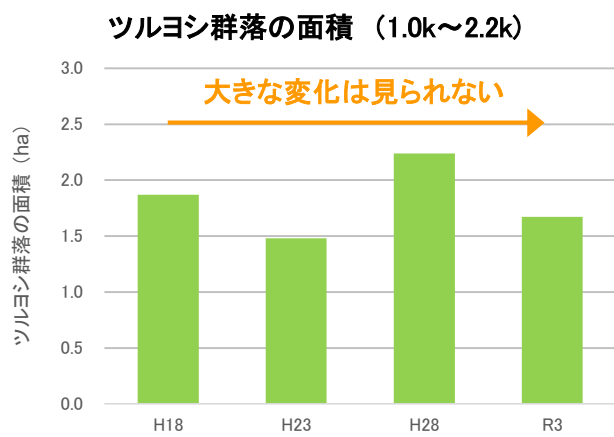
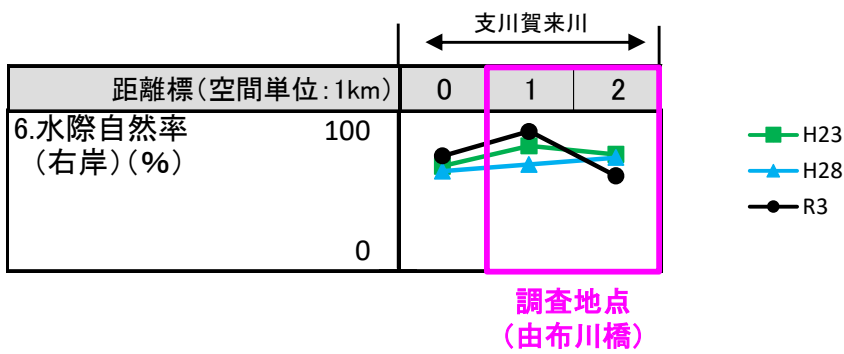
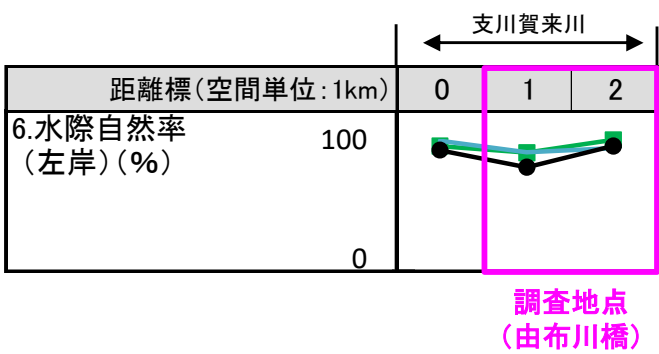
※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4巡分(15年～20年)の変化を整理した

※個体数は、国勢調査地点(胡麻鶴)で確認された個体数の合計を示す

調査年度	H18	H23	H28	R3
魚類	●	●	●	●

- 支川賀来川では植生豊かな水辺が広がっており、水際部の自然率は高い状態で維持されているほか、国勢調査地点の1.0k～2.2k区間ではツルヨシ群落に大きな変化は見られない。
- 植生豊かな水辺を代表する重要種として、アオハダトンボについて個体数の経年変化を確認した結果、わずかな個体数が安定して確認されている。

支川賀来川に生息する重要種と水辺植生の経年変化



※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4巡分(15年～20年)の変化を整理した

※個体数は、国勢調査地点(由布川橋)で確認された個体数の合計を示す

調査年度	H16	H25	R5
昆虫	●	●	●

大分川河川環境管理シート【下流部(淡水区間)】

代表区間

保全区間

a)生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
大セグメント区分		セグメント2-1					セグメント3						
河川環境区分		区分2											
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	△	○	○	△			△	○	△	○	△
		2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○	△	○	△	△	△	○	△	○	△
		3. 自然裸地		○	○	△	○	○	△	△	○	△	△
		4. 外来植物生育地	×	×	×	△	△	×	×	×		△	△
	水際域	5. 水生植物帯	○							○			
		6. 水際の自然度	○	○	△	○	○	△	△	○	○	○	○
		7. 水際の複雑さ	△	○	○	△	○	△	△	○	○	△	△
	水域	8. 連続する瀬と淵		△	△	△	△	△	△	○	○	△	△
		9. ワンド・たまり	△	○				○		○	△	△	△
		10. 湛水域	△			×			×			△	△
	汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		2	5	2	1	3	2	0	3	5	4	1	

b) 生物との関わり方の強さの評価

距離標(空間単位:1km)		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
大セグメント区分		セグメント2-1					セグメント3						
河川環境区分		区分2											
重要種数	魚類(R3)		3							3			
	底生動物(R2)	6	6							7			
	植物(R3)		5							5			
	鳥類(H30)		2		1	2	1	2	1	2			
	両・爬・哺(R4)		4							3			
	陸上昆虫類(R5)		7							9			
重要種全体合計		6	27	0	0	1	2	1	2	28	0		
特徴づける種(注目種の個体数と依存する生息場)	魚類	ミナミメダカ		63							47		
		ワンド・たまり	△	○				○		○	△	△	
		アユ		31							19		
		連続する瀬と淵		△	△	△	△	△	△	○		△	
		アカザ									1		
	植物	連続する瀬と淵		△	△	△	△	△	△		○		△
		タコノアシ		75							178	1	1
		低・中茎草地	△	○	○	△			△	○	△	○	
		コチドリ							1	17	2	2	
		自然裸地		○	○	△	○	○	△	○	○	○	△
生物との関わり方の強さの評価値		0	3	2	0	1	2	0	2	3	2	0	
生物との関わり方の強さに関するコメント		下流域に特徴的な瀬淵、河原、ワンド・たまり、水辺植生などに着目											

※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。

c) 代表区間の選定

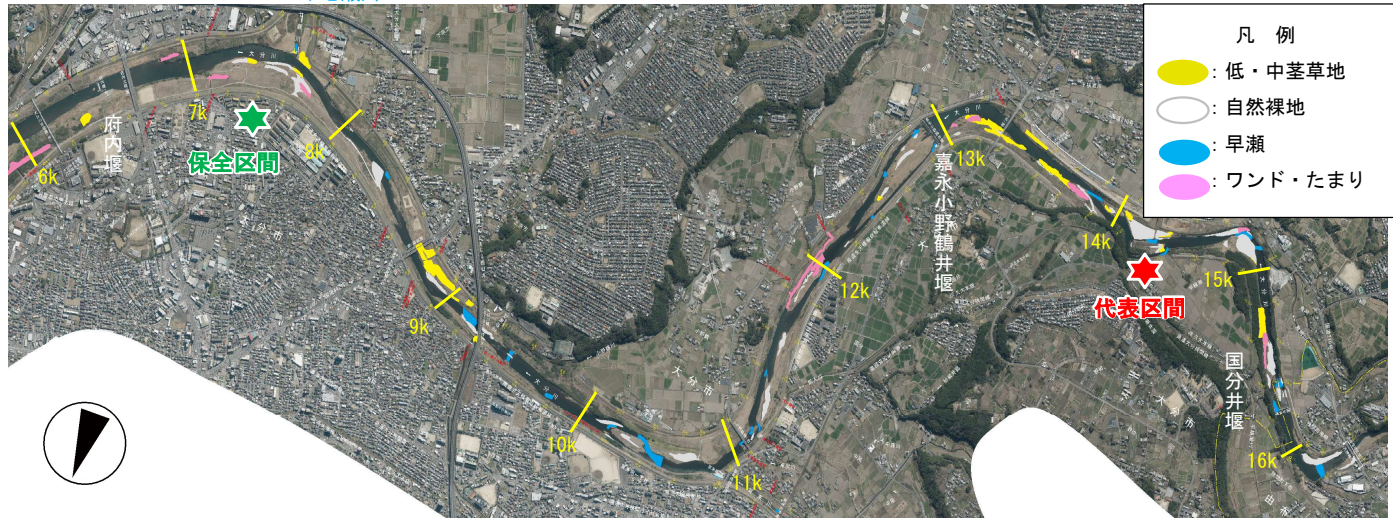
距離標(空間単位:1km)		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
河川環境区分		区分2											
生息場の多様性の評価値		2	5	2	1	3	2	0	3	5	4	1	
生物との関わり方の強さの評価値		0	3	2	0	1	2	0	2	3	2	0	
代表区間候補の抽出			A							A	B		
候補の抽出理由		・A: 評価値が両方とも1位→原風景が残る14kを選定 ・B: 評価値が両方とも2位以内											
橋の有無				○			○		○			○	
代表区間の選定結果										★			

【河川環境の現状】

- 大分川下流部は、大きく蛇行しながら中心市街地へと流下する。河床は砂礫が主となり、連続する瀬はアユやカワヨシノボリ等の生息・繁殖の場として重要な役割を担っている。
- 河岸にはアラカシやヤナギ類からなる河畔・河岸林が発達し、サギ類の休息場やコムラサキの生息・繁殖の場となっている。
- ツルヨシ群落が広がる砂礫河原ではコチドリ等が生息・繁殖し、絶滅危惧種のタコノアシが生育するワンドはカワセミの採餌場となっており、絶滅危惧種のミナミメダカが生息・繁殖する。
- 高水敷にはオギ群落が広がり、これらイネ科植物をカヤネズミが生息・繁殖場として利用している。

【保全・創出】

- アユやカワヨシノボリ等の魚類が生息・繁殖する瀬を保全・創出する。
- サギ類が休息しコムラサキが生息・繁殖する河畔・河岸林を保全・創出する。
- コチドリ等が生息・繁殖する砂礫河原を保全・創出する。
- 絶滅危惧種のタコノアシが生育し、カワセミが採餌場に利用し、絶滅危惧種のミナミメダカが生息・繁殖するワンドを保全・創出する。
- カヤネズミが生息・繁殖する高茎草地进行を保全・創出する。



大分川河川環境管理シート【支川七瀬川】

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)										
距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4	5	6	7	
大セグメント区分		セグメント1								
河川環境区分		区分3								
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	○	○	△	△	○	○	△	
		2. 河辺性の樹林・河畔林	△	○	○	△	△	○	○	△
		3. 自然裸地	○	△	○	△	○	△	○	
		4. 外来植物生育地	×	×	×	×	△	△	△	△
	水際域	5. 水生植物帯								○
		6. 水際の自然度	△	○	△	○	○	△	○	○
		7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	○	○	○
	水域	8. 連続する瀬と淵	△	△	△	△	△	△	○	
		9. ワンド・たまり							○	
		10. 湛水域		△	△			×		×
	汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		1	2	1	0	4	2	6	2	

代表区間

保全区間

【河川環境の現状】

- 支川七瀬川の上流部は山地溪流となっており、絶滅危惧種のオオイタサンショウウオが生息・繁殖している。
- 七瀬川の中～下流部は里山を流下し、アラカシ等の河畔林はヤマセミの休息場となっている。
- ツルヨシ群落が発達する水辺やワンドにはカワヂシャが生育し、絶滅危惧種のミナミメダカが生息・繁殖するほか、コガタノゲンゴロウが生息する。
- 緩やかに蛇行する水域には瀬・淵が連続し、ゲンジボタルやカジカガエル等が早瀬～平瀬を、絶滅危惧種のスナヤツメ南方種が淵を生息・繁殖に利用している。

【保全・創出】

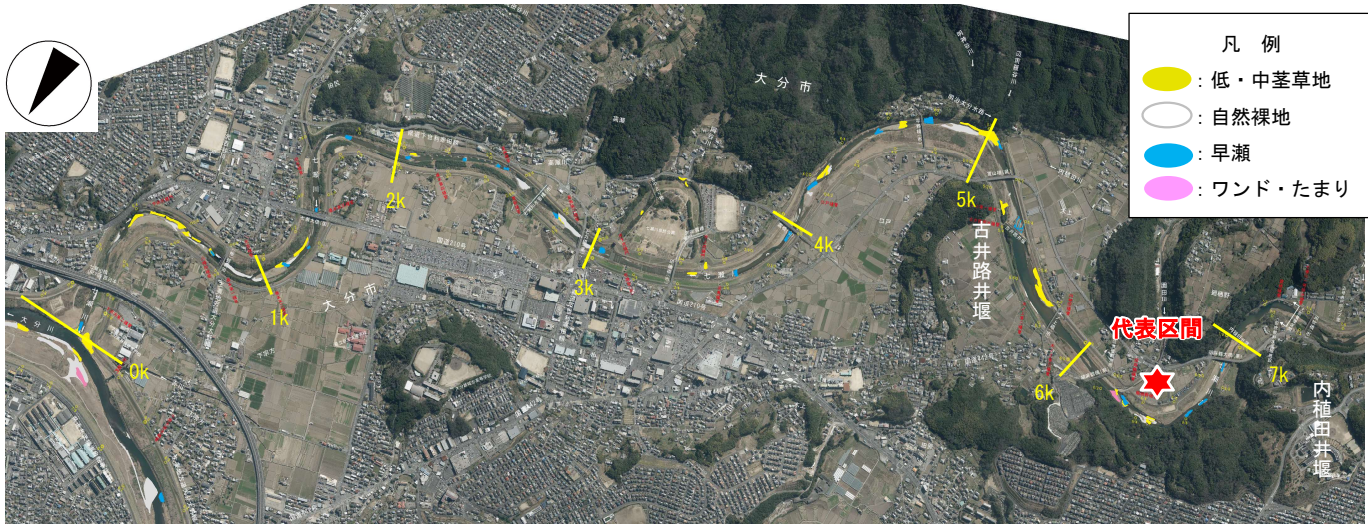
- ヤマセミが休息するアラカシ等の河畔林を保全する。
- カワヂシャが生育し、絶滅危惧種のミナミメダカが生息・繁殖し、コガタノゲンゴロウが生息する水辺を保全・創出する。
- カジカガエルや絶滅危惧種のスナヤツメ南方種が生息・繁殖する連続する瀬淵を保全・創出する。

b) 生物との関わりの強さの評価									
距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4	5	6	7
大セグメント区分		セグメント1							
河川環境区分		区分3							
重要種数	魚類(R3)							4	
	底生動物(R2)							7	
	植物(R3)					5	7		
	鳥類(H30)	1		1	1	2	1	1	1
	両・爬・哺(R4)						3		
	陸上昆虫類(R5)							8	
	重要種全体合計	1	0	1	1	7	11	20	1
特徴づける種(注目種)の個体数と依存する生息場	魚類	アカザ							1
		連続する瀬と淵	△	△	△	△	△	△	○
		スナヤツメ類							1
		連続する瀬と淵	△	△	△	△	△	△	○
		アユ(産卵場の数)	8	2		1	1		1
		アユ産卵場	○	○		○	○		○
	植物	カワヂシャ					34	14	
		低・中茎草地	○	○	△	△	○	○	△
	昆虫	コガタノゲンゴロウ							1
		ワンド・たまり							○
生物との関わりの強さの評価値		2	2	0	1	2	1	4	0

生物との関わりの強さに関するコメント
・七瀬川に特徴的な瀬淵、ワンド・たまり、水辺植生などに着目
※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。

c) 代表区間の選定

距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4	5	6	7
河川環境区分		区分3							
生息場の多様性の評価値		1	2	1	0	4	2	6	2
生物との関わりの強さの評価値		2	2	0	1	2	1	4	0
代表区間候補の抽出						B		A	
候補の抽出理由		・A: 評価値が両方とも1位 ・B: 評価値が両方とも2位以内							
橋の有無		○	○	○	○	○	○	○	
代表区間の選定結果								★	



七瀬川6.2k付近(代表区間)



植生豊かな水辺環境



多様な流れの瀬



ミナミメダカ



コガタノゲンゴロウ



カジカガエル



スナヤツメ南方種

大分川河川環境管理シート【支川賀来川】

a)生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)					
距離標(空間単位:1km)			0	1	2
大セグメント区分			セグメント1		
河川環境区分			区分4		
典型性	陸域	1. 低・中茎草地		○	
		2. 河辺性の樹林・河畔林	○	△	○
		3. 自然裸地	△	○	
		4. 外来植物生育地	×	△	
	水際域	5. 水生植物帯			
		6. 水際の自然度	○	○	○
		7. 水際の複雑さ	○	○	△
		8. 連続する瀬と淵	△	○	△
	水域	9. ワンド・たまり	○		
		10. 湛水域	×		
	汽水	11. 干潟	—	—	—
		12. ヨシ原	—	—	—
生息場の多様性の評価値			2	5	2

b) 生物との関わりの強さの評価					
距離標(空間単位:1km)		0	1	2	
大セグメント区分		セグメント1			
河川環境区分		区分4			
重要種数	魚類(R3)			2	
	底生動物(R2)			2	
	植物(R3)			4	
	鳥類(H30)	1		2	
	両・爬・哺(R4)		4		
	陸上昆虫類(R5)			6	
重要種全体合計		1	4	16	
特徴づける種(注目種)の個体数と依存する生息場	魚類	ミナミメダカ		6	
		ワンド・たまり	○		
	植物	ミゾコウジュ		3	
		低・中茎草地	○		
	鳥類	イカルチドリ		2	3
		自然裸地	△	○	
	爬虫	ニホンイシガメ		2	
	昆虫	ワンド・たまり	○		
		アオハダトンボ		2	
		低・中茎草地		○	
生物との関わりの強さの評価値		2	3	0	
生物との関わりの強さに関するコメント		・賀来川に特徴的なワンド・たまり、水辺植生などに着目			

※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数、個体数を示す。

c) 代表区間の選定			
距離標(空間単位:1km)	0	1	2
河川環境区分	区分4		
生息場の多様性の評価値	2	5	2
生物との関わりの強さの評価値	2	3	0
代表区間候補の抽出	B	A	
候補の抽出理由	・A: 評価値が両方とも1位・B: 評価値が両方とも2位以内		
橋の有無	○	○	○
代表区間の選定結果		★	

代表区間

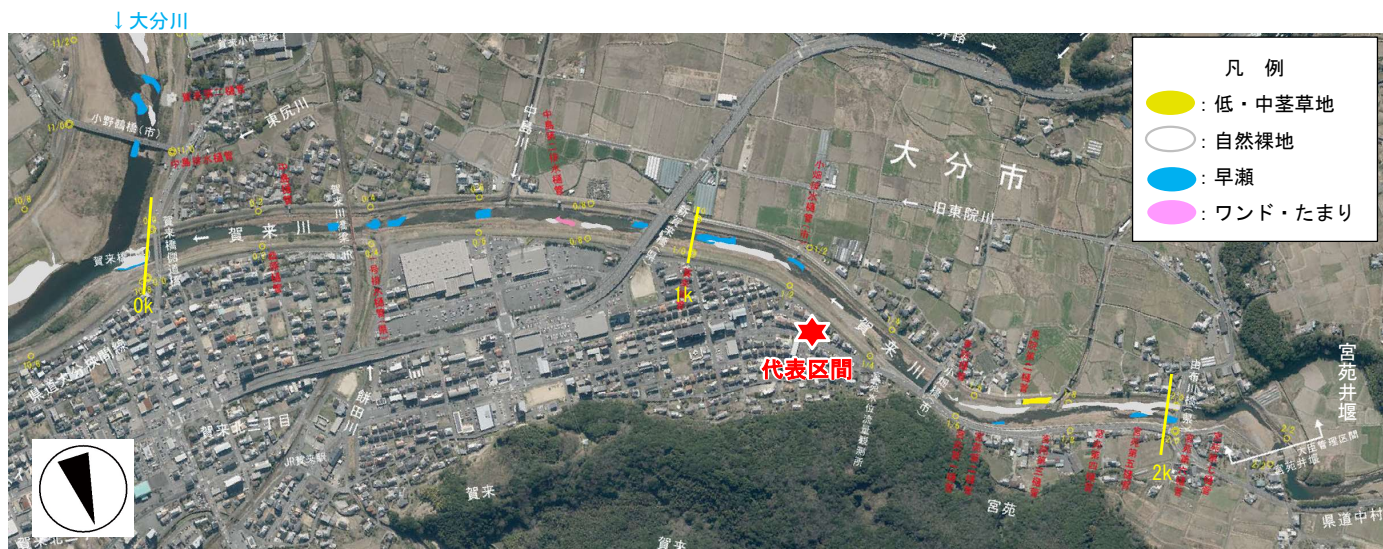
保全区間

【河川環境の現状】

- 支川賀来川の下流部は耕作地や住宅地を緩やかに流下し、小規模な瀬・淵が連続する。
- ツルヨシ群落が広がる水辺にはミゾコウジュが生育し、アオハダトンボが生息・繁殖している。
- 瀬ではオイカワが、淵ではオオシマドジョウが生息・繁殖し、河原ではイカルチドリが生息・繁殖している。

【保全・創出】

- ミゾコウジュが生育し、アオハダトンボが生息・繁殖する水辺を保全・創出する。
- オイカワやオオシマドジョウが生息・繁殖する瀬淵を保全・創出する。
- イカルチドリが生息・繁殖する河原を保全・創出する。



賀来川1.0k付近(代表区間)



小規模な瀬淵



ツルヨシが分布する河原



オイカワ



オオシマドジョウ



アオハダトンボ



イカルチドリ

河川環境の整備と保全 環境の目標設定

- 河川環境情報図を見える化した「河川環境管理シート」をもとに、地形や環境などの経年変化を踏まえ、区間ごとに重要な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出の方針を明確化する。
- 事業計画の検討においては、事業計画の検討、事業の実施、効果を把握しつつ、目標に照らして順応的な管理・監視を行う。

【大分川上流部：43.0k～】

【現状】

- 由布岳に発する源流付近は、クマシデ林やミヤマキリシマ低木林で代表される由布・鶴見火山群の自然林と、火山性高原に維持されているススキ草原が分布するほかはスギ植林が主体となっており、山裾の河岸は巨石や岩塊に覆われた山地溪流を呈している。温泉郷の由布院盆地を貫流する上流部には小さな瀬・淵がみられ、砂礫底にはササバモや絶滅危惧種のトゲナベブタムシが生息・生育する。水辺に繁茂するマコモやツルヨシは、バンやヒクイナ等が生息・繁殖の場として利用し、植生が豊かな水際の緩流部ではホンサナエやドジョウ、絶滅危惧種のミナミメダカ等が生息・繁殖している。盆地内の水域にはトノサマガエルのほか、ニッポンミズスマシやオンセンミズゴマツボ等当該エリアに特徴的な種が分布し、沿川一帯として優れた多様性を有している

【目標】

- ササバモや絶滅危惧種のトゲナベブタムシが生息・生育する瀬淵の砂礫底を保全・創出する。バンやヒクイナ、ホンサナエやドジョウ、絶滅危惧種のミナミメダカ等が生息・繁殖する植生豊かな水際の緩流部を保全・創出する。トノサマガエル、ニッポンミズスマシ、オンセンミズゴマツボが生息する盆地内の水域を保全する。

【大分川中流部：21.3k～43.0k】

【現状】

- 峡谷形態をなす中流部には、特定植物群落の河岸断がいのアラカシ林が帯状に分布し、その背後環境をヤマセミが利用している。溪流の様相を呈する水域には瀬・淵が発達し、アユやヨシノボリ類、絶滅危惧種のアカザのほか、カジカガエルやカワガラス等が生息している。ツルヨシ等の水辺植生が広がる水辺ではアオハダトンボが生息・繁殖し、礫河原はイカルチドリが採餌場として利用している。水辺の木陰はオシドリの休息場として利用される。

【目標】

- ヤマセミが利用する河岸断がいのアラカシ林を保全する。アユやヨシノボリ類、絶滅危惧種のアカザ、カジカガエル、カワガラス等が生息する発達した瀬淵を保全・創出する。アオハダトンボが生息・繁殖する水辺植生が広がる水辺を保全・創出する。イカルチドリが採餌場として利用する礫河原を保全・創出する。オシドリの休息場として利用する水辺の木陰を保全する。

【大分川下流部（淡水区間）：6.4k～21.3k】

【現状】

- 大分川下流部は、大きく蛇行しながら中心市街地へと流下する。河床は砂礫が主となり、連続する瀬はアユやカワヨシノボリ等の生息・繁殖の場として重要な役割を担っている。河岸にはアラカシやヤナギ類からなる河畔・河岸林が発達し、サギ類の休息場やコムラサキの生息・繁殖の場となっている。ツルヨシ群落が広がる砂礫河原ではコチドリ等が生息・繁殖し、絶滅危惧種のタコノアシが生息するワンドはカワセミの採餌場となっており、絶滅危惧種のミナミメダカが生息・繁殖する。高水敷にはオギ群落が広がり、これらイネ科植物をカヤネズミが生息・繁殖場として利用している。

【目標】

- アユやカワヨシノボリ等の魚類が生息・繁殖する瀬を保全・創出する。サギ類が休息しコムラサキが生息・繁殖する河畔・河岸林を保全・創出する。コチドリ等が生息・繁殖する砂礫河原を保全・創出する。絶滅危惧種のタコノアシが生息し、カワセミが採餌場に利用し、絶滅危惧種のミナミメダカが生息・繁殖するワンドを保全・創出する。カヤネズミが生息・繁殖する高茎草地を保全・創出する。

大分川河川環境管理シート【下流部(感潮区間)】

◆基本情報①：河川環境区分（セグメント形成要因）

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5
略図						
河川環境区分	区1					
河川区分	下流部					
大セグメント区分	セグメント2-2					
小セグメント区分	2-2①					
堤内地の景観 右岸側	市街地					
堤内地の景観 左岸側	市街地					
周辺の地形・地質	平地					
河床勾配 (平均河床高)	1/2500					
河床材料	砂					
川幅 (河道幅・水面幅)						
横断工作物	古国府末止■					
支川の合流	裏川(分派)● 米良川● 豊後田川●					
特徴的な狭窄部						
自然再生課題:						

◆基本情報②：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき評価）

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5
陸域						
1. 低・中草地						
2. 河辺性の樹林・河畔林						
3. 自然裸地						
4. 外来植物生育地						
水域						
5. 水生植物帯						
6. 水際の自然度						
7. 水際の複雑さ						
8. 連続する瀬と淵						
9. ワンド・たまり						
10. 湛水域						
汽水						
11. 干潟						
12. ヨシ原						
特殊						
13. 河原の植生帯						
14. 湧水地						
15. 海浜植生帯						
16. 塩沼湿地						
生息場の多様性の評価値	0	-1	1	4	2	3

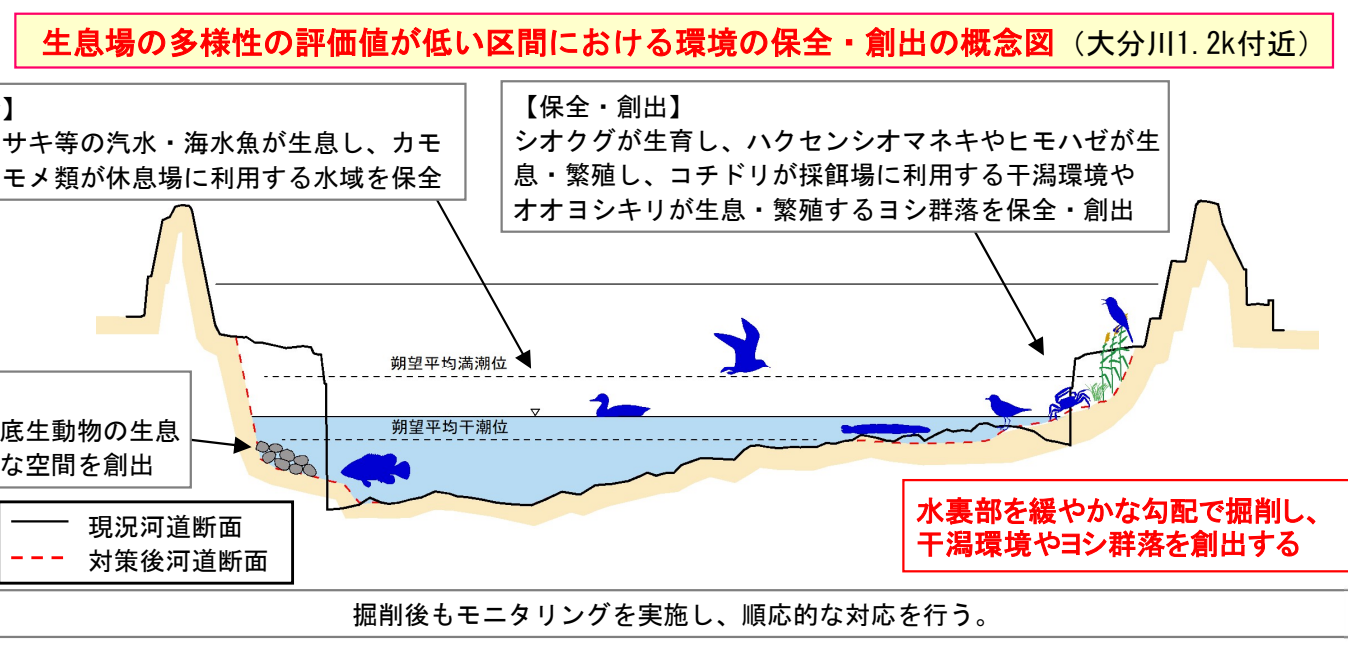
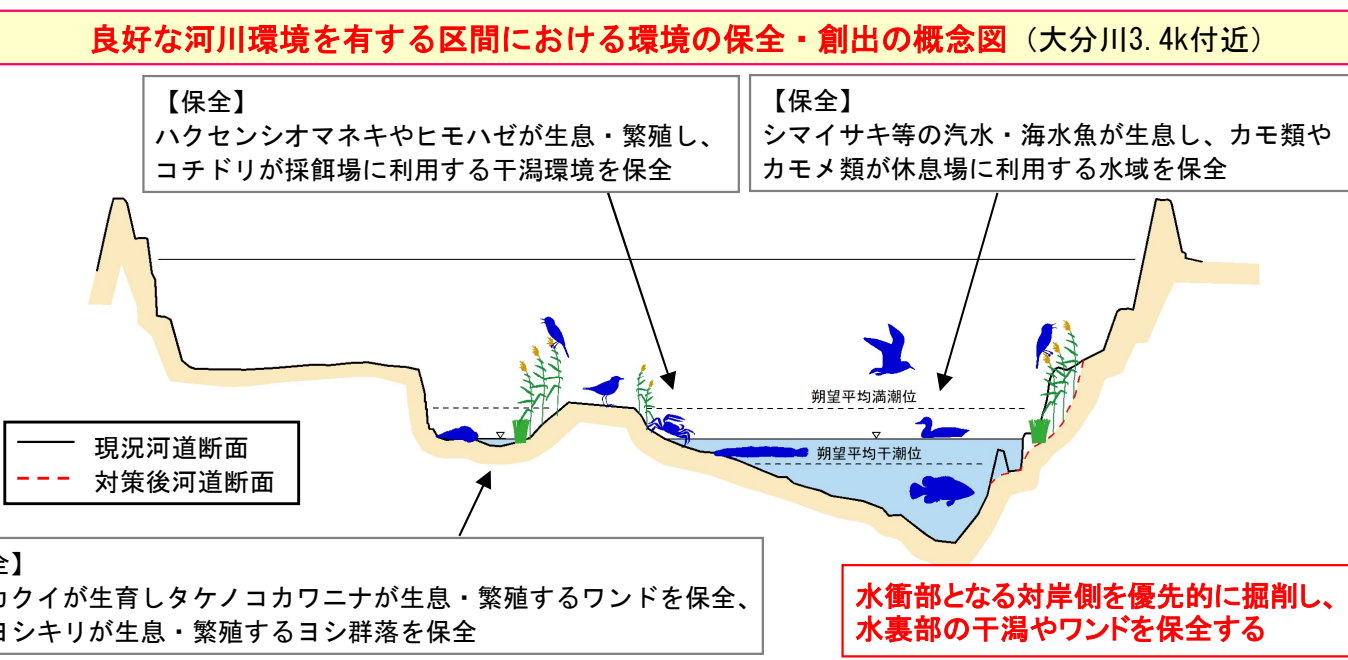
注) 生息場の多様性の評価値は、全川の中央値を基準として陸域・水際部・水域の物理環境を○・△・×で評価し、○の数から×の数を差し引いた数値。

◆基本情報③：河道環境の長期的な変化傾向

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5
陸域						
3. 自然裸地						
2. 河辺性の樹林・河畔林						
河道内樹林						
水域						
6. 水際自然率 左岸						
右岸						
7. 水際の複雑さ						
河道幅/水面幅比						
平均河床高						
最深河床高						

注) 上昇傾向↑、変化小→、減少傾向↓

河道掘削にあたっては、目標とする汽水域や干潟の生態系に応じて掘削形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する。



大分川河川環境管理シート【下流部(淡水区間)】

◆基本情報①：河川環境区分（セグメント形成要因）

距離標(空間単位:1km)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
略図											
河川環境区分	区分2										
河川区分	中流部										
大セグメント区分	セグメント2-1										
小セグメント区分	2-1①										
堤内地の景観 右岸側	市街地										
堤内地の景観 左岸側	市街地										
周辺の地形・地質	平地										
河床勾配 (平均河床高)	1/1,080										
河床材料	礫										
川幅 (河道幅・水面幅)											
横断工作物	■府内堰 ■嘉永小野鶴井堰 ■国分井堰										
支川の合流	●七瀬川 ●賀来川										
特徴的な狭窄部											
自然再生											
課題											

◆基本情報②：生物の生息場の分布状況
(全川の中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
陸域											
1. 低・中茎草地	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△
2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△
3. 自然裸地	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△
4. 外来植物生育地	×	×	×	×	△	△	△	△	△	△	△
水域											
5. 水生植物帯	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△
6. 水際の自然度	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	△
7. 水際の複雑さ	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
8. 連続する瀬と淵	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
9. ワンド・たまり	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
10. 湛水域	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
汽水											
11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特殊											
礫河原の植生域											
湧水地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値	1	5	2	0	4	4	1	4	6	4	2

注) 生息場の多様性の評価値は、全川の中央値を基準として陸域・水際部・水域の物理環境を○・△・×で評価し、○の数から×の数を差し引いた数値。

◆基本情報③：河道環境の長期的な変化傾向

距離標(空間単位:1km)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
陸域											
3. 自然裸地	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
2. 河辺性の樹林・河畔林	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
河道内樹林	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
水域											
6. 水際自然率 左岸	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
7. 水際の複雑さ 右岸	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
河道幅/水面幅比	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
平均河床高	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
最深河床高	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

注) 上昇傾向↑、変化小→、減少傾向↓

河道掘削にあたっては、平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する。

良好な河川環境を有する区間における環境の保全・創出の概念図 (大分川14.0k付近)

掘削形状の工夫(現況河床形状のスライドダウン)により、瀬淵、ワンド、河原、水辺植生、草地、河畔林を創出する。

【保全・創出】ミナミメダカが生息する水辺植生のあるワンドを保全・創出

【保全・創出】コチドリが繁殖する砂礫河原を保全・創出

【保全・創出】サギ類が休息しコムラサキが生息・繁殖する河畔林を保全・創出

【保全・創出】アユやカワヨシノボリが生息・繁殖する瀬淵を保全・創出

【保全・創出】カヤネズミが生息・繁殖するオギ群落等の草地を創出

— 現況河道断面
--- 対策後河道断面

生息場の多様性の評価値が低い区間における環境の保全・創出の概念図 (大分川12.6付近)

掘削形状の工夫(川なりに応じた河床形状)により、瀬淵、ワンド、河原、水辺植生、草地、河畔林を創出する。

【保全・創出】サギ類が休息しコムラサキが生息する河畔林やカヤネズミが生息・繁殖するオギ群落等の草地を保全・創出

【保全・創出】多様な動植物が生息・生育・繁殖するワンド、水辺植生、砂礫河原を保全・創出

【保全・創出】アユやカワヨシノボリが生息・繁殖する瀬淵を保全・創出

— 現況河道断面
--- 対策後河道断面

掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う。

大分川河川環境管理シート【支川七瀬川】

◆基本情報①：河川環境区分（セグメント形成要因）									
距離標(空間単位:1km)									
		0	1	2	3	4	5	6	7
略図									
		代表区間							
		整備箇所							
河川環境区分		区分3							
河川区分	河川区分	中流部							
	大セグメント区分	セグメント1							
	小セグメント区分	1-①							
	堤内地の景観 右岸側	住宅地	農地・住宅地	山付き	農地・	住宅地・	山付き	山付き	
主なセグメント形成要因	堤内地の景観 左岸側	農地・市街地	農地	農地	農地	山付き	山付き		
	周辺の地形・地質	平地							
	河床勾配 (平均河床高)	1/330							
	河床材料	標							
河床幅	河床幅	河道幅							
	河道幅・水面幅	水面幅							
	横断工作物	古井路井堰■							
	支川の合流	●田原川							
特徴的な狭窄部	特徴的な狭窄部	内樋田井堰■							
	自然再生								
	課題:								

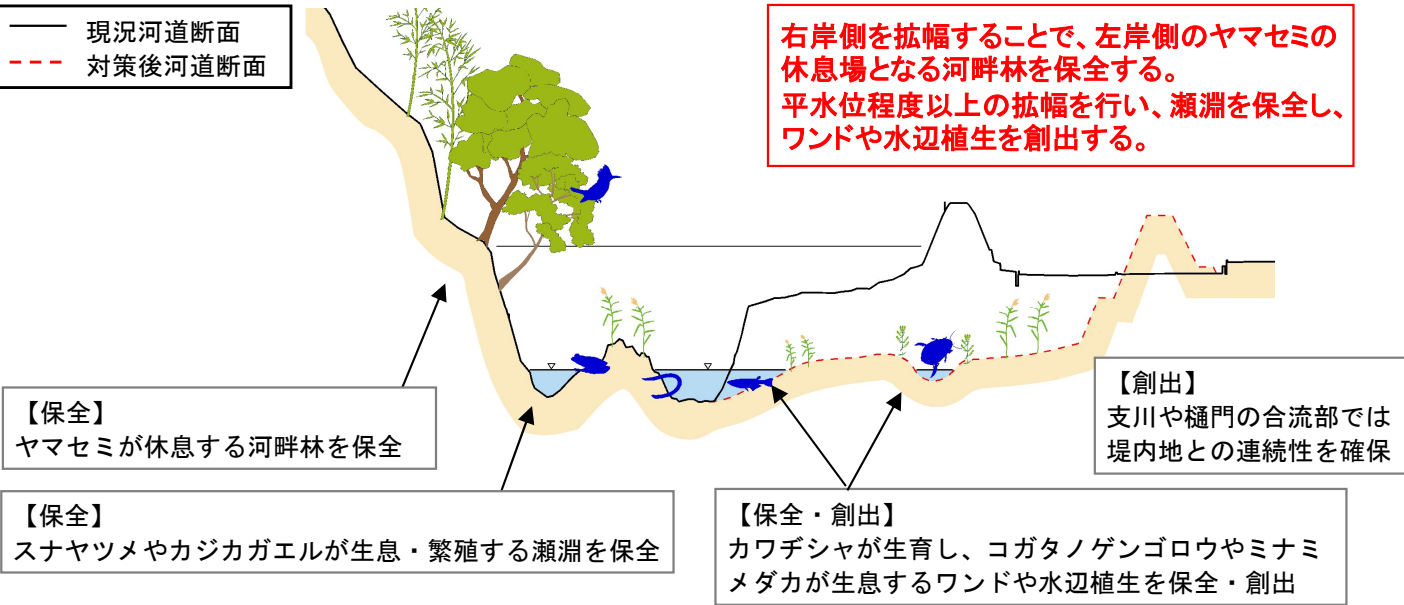
◆基本情報②：生物の生息場の分布状況 (全川の中央値に基づき評価)											
		距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7	
典型性	陸域	1. 低・中草草地	△	△	△	△	○	○	△		
		2. 河辺性の樹林・河畔林	△	○	○	△	△	○	○	△	
		3. 自然裸地	○	△	○	△	△	△	△		
		4. 外来植物生育地	×	×	△	×	△	△	△	△	
	水際域	5. 水生植物帯									△
		6. 水際の自然度	○	○	○	○	○	△	○	○	○
		7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	△	○	○	○	○
		8. 連続する瀬と淵	△	△	△			○	○	○	
	水域	9. ワンド・たまり								△	
		10. 湛水域		△	△			×			△
		11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特殊性	機河原の植生域										
	湧水地										
	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
生息場の多様性の評価値			1	1	3	0	4	3	4	2	

注) 生息場の多様性の評価値は、全川の中央値を基準として陸域・水際域・水域の物理環境を○・△・×で評価し、○の数から×の数を差し引いた数値。

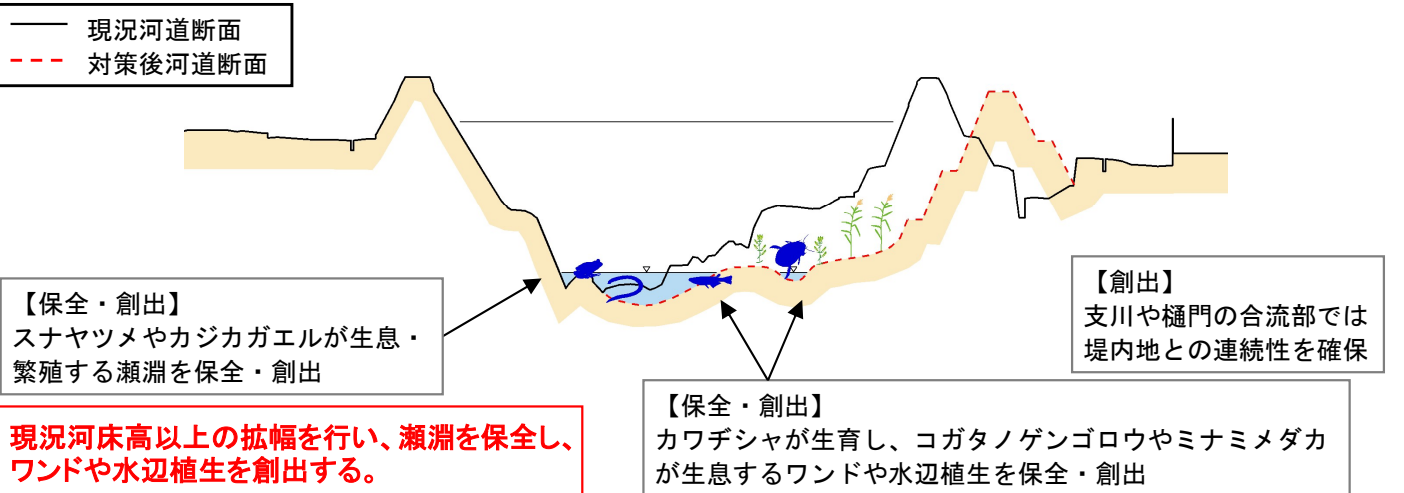
◆基本情報③：河道環境の長期的な変化傾向									
距離標(空間単位:1km)		0	1	2	3	4	5	6	7
陸域	3.自然裸地	→	→	→	→	↓	→	→	→
	2.河辺性の樹林・河畔林	↑	→	→	↓	↓	→	→	→
	河道内樹林	↑	↑	→	↓	→	↑	→	→
水際域	6.水際自然率	左岸	→	→	→	→	→	→	→
	右岸	→	→	→	→	↓	→	→	→
水域	7.水際の複雑さ	→	→	→	→	→	→	→	↑
	河道幅/水面幅比	→	→	→	→	→	→	→	→
	平均河床高	→	→	→	→	→	→	→	→
	最深河床高	→	→	→	→	→	→	→	→

河道掘削にあたっては、平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する。

良好な河川環境を有する区間における環境の保全・創出の概念図（七瀬川6.4k付近）



生息場の多様性の評価値が低い区間における環境の保全・創出の概念図（七瀬川3.8k付近）



現況河床高以上の拡幅を行い、瀬淵を保全し、ワンドや水辺植生を創出する。

掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う。

大分川河川環境管理シート【支川賀来川】

◆基本情報①：河川環境区分（セグメント形成要因）

距離標(空間単位:1km)	0	1	2
略図			
河川環境区分	区分4		
河川区分	中流部		
大セグメント区分	セグメント1		
小セグメント区分	1-①		
堤内地の景観 右岸側	農地・住宅地		
堤内地の景観 左岸側	農地・市街地・山作き		
周辺の地形・地質	平地		
河床勾配 (平均河床高)	1/220		
河床材料	礫		
川幅 (河道幅・水面幅)			
横断工作物	中島川● 宮苑井堰■		
支川の合流	●東院川		
特徴的な狭窄部			
自然再生			
課題			

◆基本情報②：生物の生息場の分布状況 (全川の中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	0	1	2
陸域			
1. 低・中草草地	△	△	△
2. 河辺性の樹林・河畔林	△	△	△
3. 自然裸地	△	○	○
4. 外来植物生育地	×	△	
水域			
5. 水生植物帯			
6. 水際の自然度	△	○	○
7. 水際の複雑さ	△	△	△
8. 連続する瀬と淵	△	○	△
9. ワンド・たまり	△		
10. 湛水域	△		
汽水			
11. 干潟	-	-	-
12. ヨシ原	-	-	-
特殊性			
機河原の植生帯			
湧水地	-	-	-
海浜植生帯	-	-	-
塩沼湿地	-	-	-
生息場の多様性の評価値	-1	3	1

◆基本情報③：河道環境の長期的な変化傾向

距離標(空間単位:1km)	0	1	2
陸域			
3. 自然裸地	→	→	→
2. 河辺性の樹林・河畔林	→	→	→
河道内樹林	→	→	→
水域			
6. 水際自然率 左岸	→	→	→
右岸	→	→	→
7. 水際の複雑さ	→	→	→
河道幅/水面幅比	→	→	→
水			
平均河床高	→	→	→
最深河床高	→	→	→

注) 上昇傾向↑、変化小→、減少傾向↓

河道掘削にあたっては、平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する。

良好な河川環境を有する区間における環境の保全・創出の概念図（賀来川1.4k付近）

— 現況河道断面
- - - 対策後河道断面

掘削形状の工夫(現況河床形状のスライドダウン)により、瀬淵、水辺植生、河原を創出する。

【保全・創出】
ミゾコウジュが生育し、アオハダトンボが生息・繁殖する水辺植生を保全・創出

【保全・創出】
オイカワやオオシマドジョウが生息・繁殖する瀬淵を保全・創出

【保全・創出】
イカルチドリが生息・繁殖する河原を保全・創出

生息場の多様性の評価値が低い区間における環境の保全・創出の概念図（賀来川0.4k付近）

— 現況河道断面
- - - 対策後河道断面

掘削形状の工夫(現況河床形状のスライドダウン)により、瀬淵、水辺植生、河原を創出する。

【保全・創出】
イカルチドリが生息・繁殖する河原を保全・創出

【保全・創出】
ミゾコウジュが生育し、アオハダトンボが生息・繁殖する水辺植生を保全・創出

【保全・創出】
オイカワやオオシマドジョウが生息・繁殖する瀬淵を保全・創出

掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う。

表 重要種(魚類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ニホンウナギ			EN			H7,H13,H23,H28,R3
2		ドジョウ			NT			H18,H23,H28
3		ミナミメダカ			VU			H13,H18,H23,H28,R3
4	○	ヒモハゼ			NT		NT	H28,R3
5		タネハゼ					NT	H23,H28,R3
6		チクゼンハゼ			VU	●	EN	H23,H28
7		クボハゼ			EN	●	EN	H13,H23
合計	1種	7種	0種	0種	6種	2種	4種	

表 重要種(植物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ヒメミズワラビ					VU	R3
2		ササバモ					EN	R3
3		ヒメコウガイゼキショウ					VU	R3
4		ウキヤガラ					NT	H4,H8,H23,R3
5		ツクシオオガヤツリ			VU		EN	H23,R3
6	○	サンカウイ					VU	H4,H8,H13,H23,R3
7		タコノアシ			NT		EN	H4,H8,H13,H23,R3
8		カワヂシャ			NT		NT	H4,H8,R3
9		ミゾコウジュ			NT		NT	H8,H13,R3
10		ホンバオグルマ			VU		VU	H23
合計	1種	10種	0種	0種	5種	0種	10種	

表 重要種(両爬哺)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ニホンイシガメ			NT		VU	H5,H10
2		ジネズミ					NT	R4
3		カヤネズミ					NT	H15,H24,R4
合計	0種	3種	0種	0種	1種	0種	3種	

表 重要種(底生動物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ヒロクチカノコガイ			NT		EN	H17,H22,H27,R2
2		ミヤコドリガイ			NT		CR	H22,H27,R2
3		ウミニナ			NT			H22,H27,R2
4	○	タケノコカワニナ			VU		CR	H22,H27,R2
5		カワグチツボ			NT		NT	H7
6		クリイロカワザンショウガイ			NT			H27,R2
7		ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ			NT			H22,H27,R2
8		ヨシダカワザンショウガイ			NT		EN	R2
9		モノアラガイ			NT			H22,H27
10		カワコザラガイ						H12,H22
11		クルマヒラマキガイ			VU		VU	H22,H27
12		ヒラマキガイモドキ			NT			H7
13		ウネナシトマヤガイ			NT			H12,H17,H22,H27,R2
14		ヤマトシジミ			NT			H17,H27,R2
15		マシジミ			VU			H12
16		ユウシオガイ			NT			H22,H27,R2
17		オチバガイ			NT			H17,H22,H27,R2
18		イトメ			NT			H12,H17,H22,H27
19		ユピアカベンケイガニ			NT			R2
20		ベンケイガニ			NT			H27,R2
21		ハマガニ			NT		NT	H22,H27,R2
22		ヒメアシハラガニ			NT			H12,H22
23		ヒメケフサイソガニ			NT		DD	H27
24		タイワンヒライソモドキ			NT		NT	H22,H27,R2
25		オオヒメアカイソガニ			VU			H7
26		アリアケモドキ					NT	H17,H22,H27,R2
27	○	ハクセンシオマネキ			VU		NT	H12,H17,H22,H27,R2
28		タベサナエ			NT			H17,H27,R2
29		クビボソコガシラミズムシ			DD		NT	R2
合計	2種	29種	0種	0種	27種	0種	12種	

表 重要種(鳥類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		オシドリ			DD		NT	H14
2		トモエガモ			VU		VU	H14
3		クロサギ					NT	H14
4		ヒクイナ			NT		VU	H4,H14
5		アマツバメ					NT	H14
6	○	コチドリ					NT	H4,H9,H14,H30
7		シロチドリ			VU		VU	H4
8		メダイチドリ		国際				H4
9		ハマシギ			NT		NT	H9
10		コアジサシ			VU		CR	H4,H14
11		ミサゴ			NT		NT	H4,H9,H14,H20,H30
12		ハイタカ			NT		NT	H9,H30
13		オオタカ			NT		VU	H14
14		ノスリ					NT	H14,H20
15		ハヤブサ		国内	VU		VU	H9,H20,H30
16		ホオアカ					NT	H4,H9,H14,H20,H30
合計	1種	16種	0種	2種	10種	0種	15種	

表 重要種(昆虫類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ドウシゲモ			DD			R5
2		ネアカヨシヤンマ			NT			R5
3		ギンイチモンジセセリ			NT		NT	H11
4		ヌマベウススキトウ			VU		NT	H11
5		スナハラゴミムシ			VU		VU	H11
6		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H16
7		スジヒラタガムシ			NT			H16
8		ヒゲコガネ					NT	H11,H16
9		ヤマトアシナガバチ			DD			R5
10		キバラハキリバチ			NT			H25
合計	0種	10種	0種	0種	9種	0種	5種	

※記載内容は、国管理区間全域および県管理区間の一部で確認されたものを示す。
※重要種: 下記の資料の掲載種及び貴重または保護すべき種として指定されている種
[文化財]: 「文化財保護法」(昭和 25 年)または「大分県文化財保護条例」(昭和 30 年)に基づく天然記念物
[保存法]: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種)
[環境省]: 環境省 RL 環境省レッドリスト 2020(環境省 2020 年 3 月)
環境省海洋 RL 環境省海洋生物レッドリスト(環境省 2017 年 3 月)
[大分県]: 大分県指定文化財に指定されている天然記念物(大分県 2023 年 3 月)
大分県希少野生動植物の保護に関する条例に指定されている種(大分県 2023 年 10 月)
[大分県RDB]: 大分県レッドデータブックおいた 2022
大分県の絶滅のおそれのある野生生物(大分県 2023 年 3 月)

表 重要種(魚類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		スナヤツメ南方種			VU		EN	H13,H28
2		ニホンウナギ			EN			H7,H13,H22,H23,H28,R3
3		ドジョウ			NT			H13,H18,H23,H26,H28,R3
4		アカザ			VU		VU	R3
5	○	ミナミメダカ			VU			H13,H18,H23,H28,R3
合計	1種	5種	0種	0種	5種	0種	2種	

表 重要種(植物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		シャジクモ			VU			H22
2		マツバラシ			NT			H23
3		ヒメミズワラビ					VU	H23,R3
4		ヒノキ※					VU	H22
5		ササバモ					EN	R3
6		シラン			NT		NT	H22,H23,H26
7		エビネ			NT		VU	H22
8		キンラン			NT		VU	H22
9		ツクシオオガヤツリ			VU		EN	H23,R3
10		サンカクイ					VU	R3
11		ナガミノツルケマン			NT		NT	R3
12	○	タコノアシ			NT		EN	H22,H23,R3
13		イヌハギ			NT		VU	H22
14		ノウルシ			NT		VU	H22
15		イヌコリヤナギ					VU	H22,R3
16		ミズマツバ			NT		VU	R3
17		コギシギシ			NT		VU	R3
18		センブリ					NT	H22
19		フナバラソウ			NT		NT	H22
20		ホタルカズラ					VU	H22
21		カワヂシャ			NT		NT	H23,H26,R3
22		ミゾコウジュ			NT		NT	H22,H23,H26,R3
23		イズハハコ			NT		NT	H22
24		ミツバグサ					VU	H22
合計	1種	24種	0種	0種	16種	0種	22種	

表 重要種(底生動物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		マルタニシ			VU		NT	H26
2		モノアラガイ			NT			H7,H12,H17,H22,H26,H27,R2
3		ナガオカモノアラガイ			NT		NT	H22
4		カワコザラガイ						H12,H22
5		ヒラマキミズマイマイ			DD			H12,R2
6		クルマヒラマキガイ			VU		VU	H17,H22,H27,R2
7		ヤマトシジミ			NT			H7
8		マシジミ			VU			H7,H12,H22
9		マキトラノオガニ					DD	R2
10		キイロサナエ			NT		NT	H7,H17
11		ホンサナエ					OR	H17
12		タベサナエ			NT			R2
13		コオイムシ			NT			H22,H26,H27
14		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H22,H26,H27,R2
15		キベリマメゲンゴロウ			NT		NT	H17,H26,H27,R2
16		クビボソコガシラミズムシ			DD		NT	H17,H22,H27,R2
17		スジヒラタガムシ			NT			R2
18		ヨコミゾドロムシ			VU			R2
合計	0種	18種	0種	0種	15種	0種	9種	

表 重要種(両爬虫)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		オオイタサンショウウオ		国内	VU		VU	H22,H24,R4
2		アカハライモリ			NT			H22,H24,R4
3		ニホンイシガメ			NT		VU	H5,H10,H15,H22,H24,H26,R4
4		ニホンスッポン			DD		DD	H10,H24,H26,R4
5		ヒバカリ					NT	H5,H24
6		ジネズミ					NT	H10,R4
7		コキクガシラコウモリ					NT	H22
8		モモジロコウモリ					NT	H22
9		ノレンコウモリ			VU		VU	H22
10		ユビナガコウモリ					NT	H22
11		テングコウモリ					EN	H22
12	○	カヤネズミ					NT	H10,H15,H22,H24,H26,R4
合計	1種	12種	0種	1種	5種	0種	11種	

表 重要種(鳥類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況	
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査	
1		オシドリ			DD		NT	H14,H20,H22,H26	
2		トモエガモ			VU		VU	H14	
3		ヨシゴイ			NT		EN	H4,H14	
4		アマサギ					NT	H9,H14,H20	
5		チュウサギ			NT		NT	H20	
6		ヒクイナ			NT		VU	H4,H14,H20,H26	
7		アマツバメ					NT	H14,H22	
8	○	コチドリ					NT	H4,H9,H20,H30	
9		シロチドリ			VU		VU	H4	
10		ハマシギ			NT		NT	H4,H9	
11		コアジサシ			VU		CR	H4	
12		ミサゴ			NT		NT	H9,H14,H20,H26,H30	
13		ハチクマ			NT		NT	H22	
14		ハイタカ			NT		NT	H9,H20,H22,H30	
15		オオタカ			NT		VU	H14,H20,H22,H30	
16		サシバ			VU		VU	H22	
17		ノスリ					NT	H20,H22,H30	
18		フクロウ					VU	H22	
19		アオバズク				●	VU	H14	
20		ヤマセミ					NT	H9,H14,H20	
21		ハヤブサ		国内	VU		VU	H9,H14,H20,H30	
22		サンショウクイ			VU		EN※	H14	
23		サンコウチョウ					NT	H22	
24		ヤブサメ					NT	H22	
25		キビタキ					NT	H22	
26		ホオアカ					NT	H9,H14,H30	
合計	1種	26種	0種	1種	15種	1種	26種		

※亜種サンショクイの場合

※記載内容は、国管理区間全域および県管理区間の一部で確認されたものを示す。
※重要種：下記の資料の掲載種及び貴重または保護すべき種として指定されている種
〔文化財〕：「文化財保護法」(昭和 25 年)または「大分県文化財保護条例」(昭和 30 年)に基づく天然記念物
〔保存法〕：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種)
〔環境省〕：環境省 RL 環境省レッドリスト 2020(環境省 2020 年 3 月)
環境省海洋 RL 環境省海洋生物レッドリスト(環境省 2017 年 3 月)
〔大分県〕：大分県指定文化財に指定されている天然記念物(大分県 2023 年 3 月)
大分県希少野生動植物の保護に関する条例に指定されている種(大分県 2023 年 10 月)
〔大分県RDB〕：大分県レッドデータブックおいた 2022
大分県の絶滅のおそれのある野生生物(大分県 2023 年 3 月)

表 重要種(昆虫類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況	
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査	
1		ウスレナグモ			NT			H11,H16,H25	
2		ゲンバイトンボ			NT			H11	
3		アオハダトンボ			NT			H16,H25,H26,R5	
4		ズイムシハナカメムシ			NT		NT	H6	
5		キバネアシブトマキバサシガメ					VU	R5	
6		ギンイチモンジセセリ			NT		NT	H11,H16,H25,R5	
7		ウラナミジャノメ本土亜種			VU		NT	H22	
8		ツマグロキチョウ			EN		NT	H6,H16,H22,R5	
9		コシロシタバ			NT			H22	
10		カギモンハナオイアツバ			NT			H11	
11		キシタアツバ			NT			H6,R5	
12		ナカスジキョトウ					DD	H6	
13		ベッコウハナアブ					NT	H22	
14		アオヘリアオゴミムシ			CR		CR	H16	
15		ツヤキベリアオゴミムシ			VU			H6	
16		キベリマルクビゴミムシ			EN		VU	H6	
17		テラニシセスジゲンゴロウ					NT	H25	
18		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H22,H25	
19		シマゲンゴロウ			NT		NT	H6	
20		マルチビゲンゴロウ			NT		NT	H16	
21		キベリマメゲンゴロウ			NT		NT	H16,H25,R5	
22		クビボソコガシラミズムシ			DD		NT	H25	
23		スジヒラタガムシ			NT			H16	
24		コガムシ			DD			H6,H11,R5	
25		ヒゲコガネ					NT	H6,H11,H16,R5	
26		オオセイボウ			DD		NT	R5	
27		トゲアリ			VU			H22	
28		ヤマトアシナガバチ			DD			H16,H22,H25,R5	
29		フタモンベッコウ			NT			H22	
30		アオスジクモバチ			DD			H25,R5	
31		ヤマトスナハキバチ本土亜種						R5	
32		クロマルハナバチ			NT			H25,R5	
合計	0種	32種	0種	0種	26種	0種	17種		

表 重要種(魚類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ニホンウナギ			EN			H13,H14
2		ドジョウ			NT			H13,H14,H24,H26
3	○	アカザ			VU		VU	H14,H26
4		ミナミメダカ			VU			H26
合計	1種	3種	0種	0種	3種	0種	1種	

表 重要種(底生動物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		マルタニシ			VU		NT	H24
2		モノアラガイ			NT			H12,H14,H26
3		マシジミ			VU			H12,H14
4		ホンサナエ					CR	H14
5		コオイムシ			NT			H14,H26
6		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H26
合計	0種	5種	0種	0種	4種	0種	2種	

表 重要種(植物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ヤノネシダ					NT	H24,H25
2		ヒノキ※					VU	H17,H24,H25
3		ニッケイ			NT			H24,H25
4		シラン			NT		NT	H24,H25,H26
5		エビネ			NT		VU	H24,H25
6		ギンラン					NT	H25
7		キンラン			NT		VU	H24,H25
8		ムヨウラン					EN	H25
9		フウラン			NT		EN	H24,H25,H26
10		ノハナショウブ					NT	H17
11		ナガミノツルケマン			NT		NT	H17,H24,H25
12		フサモ					VU	H17
13		ミズマツバ			NT		VU	H24,H25
14		ミヤマコナスビ					NT	H25
15		カワヂシャ			NT		NT	H17,H26
16		ミゾコウジュ			NT		NT	H26
17		イズハハコ			NT		NT	H24,H25,H26
18		オナモミ			VU			H14,H17
合計	0種	18種	0種	0種	7種	0種	13種	

※ヒノキが自生種の場合

表 重要種(鳥類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1	○	オシドリ			DD		NT	H14
2		ハイタカ			NT		NT	H14,H24
3		サシバ			VU		VU	H24
4		ノスリ					NT	H24
5	○	ヤマセミ					NT	H14
6		ハヤブサ		国内	VU		VU	H14
7		キビタキ					NT	H24
合計	2種	7種	0種	1種	4種	0種	7種	

表 重要種(両爬虫)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		オオイタサンショウウオ		国内	VU		VU	H17
2		アカハライモリ			NT			H24
3		トノサマガエル			NT		NT	H15,H17,H24
4		ニホンイシガメ			NT		VU	H15,H24
5		ジネズミ					NT	H17
6		カワネズミ			LP		VU	H17
7		コキクガシラコウモリ					NT	H17
8		ムササビ					NT	H17
9		ハタネズミ					NT	H17
10		カヤネズミ					NT	H17,H24
合計	0種	10種	0種	1種	5種	0種	9種	

表 重要種(昆虫類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1	○	アオハダトンボ			NT			H26
2		イトアメンボ			VU		CR	H11
3		コオイムシ			NT			H24
4		キベリマルクビゴミムシ			EN		VU	H11
5		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H24
6		コガムシ			DD			H11
7		ガムシ			NT		NT	H11
8		トゲアリ			VU			H24
9		ヤマトアシナガバチ			DD			H24
合計	1種	9種	0種	0種	9種	0種	4種	

※記載内容は、国管理区間全域および県管理区間の一部で確認されたものを示す。

※重要種：下記の資料の掲載種及び貴重または保護すべき種として指定されている種

〔文化財〕：「文化財保護法」(昭和 25 年)または「大分県文化財保護条例」(昭和 30 年)に基づく天然記念物

〔保存法〕：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種)

〔環境省〕：環境省 RL 環境省レッドリスト 2020(環境省 2020 年 3 月)

環境省海洋 RL 環境省海洋生物レッドリスト(環境省 2017 年 3 月)

〔大分県〕：大分県指定文化財に指定されている天然記念物(大分県 2023 年 3 月)

大分県希少野生動植物の保護に関する条例に指定されている種(大分県 2023 年 10 月)

〔大分県RDB〕：大分県レッドデータブックおおいた 2022

大分県の絶滅のおそれのある野生生物(大分県 2023 年 3 月)

表 重要種(魚類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1	○	ドジョウ			NT			H26
2	○	ミナミメダカ			VU			H13,H19
合計	2種	2種	0種	0種	2種	0種	0種	

表 重要種(植物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		イチヨウウキゴケ			NT		EN	H26
2		ホソバシケチシダ		国内	EN			H17
3		キヨズミオオクジャク					EN	H22
4		ヒノキ※					VU	H17,H22
5		ミヤコアオイ						H17
6	○	ササバモ					EN	H19,H24,H26
7		エビネ			NT		VU	H22
8		ギンラン					NT	H22
9		アブラシバ					VU	H22
10		ナガミノツルケマン			NT		NT	H19,H22,H26
11		ミズマツバ			NT		VU	H26
12		フシグロセンノウ					NT	H26
13		ギンバイソウ					VU	H22
14		ハクウンボク					NT	H17
15		キクモ					VU	H26
16		カワヂシャ			NT		NT	H26
17		カイジンドウ			VU		EN	H22
18		ミゾコウジュ			NT		NT	H26
19		ソバナ					NT	H22
20		アソノコギリソウ			NT		NT	H22
21		ヒゴタイ			VU	●	EN	H22
22		ミシマサイコ			VU		VU	H22
23		ツクバネウツギ					VU	H17
合計	1種	23種	0種	1種	11種	1種	21種	

※ヒノキが自生種の場合

表 重要種(底生動物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		マルタニシ			VU		NT	H26
2	○	オンセンミズゴマツボ			CR+EN	●天然記念物	CR	H17,R4
3		マツカサガイ			NT		NT	H17
4		マシジミ			VU			H17
5		クロゲンゴロウ						H26
6		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H26
7		シマゲンゴロウ			NT		NT	H26
8		コオイムシ			NT			H26
9	○	トゲナベバタムシ			VU		EN	H26
10	○	ニッポンミズスマシ			DD		EN	H26
11		ガムシ			NT		NT	H26
合計	3種	11種	0種	0種	10種	1種	8種	

表 重要種(鳥類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況	
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査	
1		コクガン	国天		VU		VU	H17	
2		ミゾゴイ			VU		EN	H17	
3	○	ヒクイナ			NT		VU	H26	
4		ジュウイチ					VU	H17	
5		アマツバメ					NT	H17,H22	
6		ケリ			DD		NT	H26	
7		ミサゴ			NT		NT	H22	
8		ハチクマ			NT		NT	H17	
9		ツミ					VU	H17,H22	
10		ハイタカ			NT		NT	H17,H22	
11		オオタカ			NT		VU	H17,H22	
12		サンバ			VU		VU	H17	
13		ノスリ					NT	H17,H22	
14		コノハズク					VU	H17	
15		フクロウ					VU	H17	
16		アカショウビン					VU	H17	
17		ヤマセミ					NT	H17	
18		サンショウクイ			VU		EN※	H17,H22	
19		ヤブサメ					NT	H17	
20		トラツグミ					NT	H17	
21		クロツグミ					NT	H17	
22		キビタキ					NT	H17,H22,H26	
23		ホオアカ					NT	H22,H26	
合計	1種	23種	1種	0種	10種	0種	23種		

表 重要種(両爬哺)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況	
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査	
1		ブチサンショウウオ		国内	EN			H17	
2		アカハライモリ			NT			H17,H26	
3	○	トノサマガエル			NT		NT	H15,H17,H22,H26	
4		ニホンスッポン			DD		DD	H15,H26	
5		ジムグリ					NT	H22	
6		シロマダラ					NT	H22	
7		スミスネズミ					VU	H22	
8		カヤネズミ					NT	H15,H26	
合計	1種	8種	0種	1種	4種	0種	6種		

表 重要種(昆虫類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況	
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査	
1		アオハダトンボ			NT			H26	
2	○	ホンサナエ					CR	H26	
3		キイロヤマトンボ			NT		VU	H26	
4		オオアシナガサシガメ			NT			H22	
5		イトアメンボ			VU		CR	H17	
6		オオムラサキ			NT		NT	H17	
7		ウラナミジャノメ本土亜種			VU		NT	H17	
8		ツマグロキチョウ			EN		NT	H17,H22	
9		ツリフネソウトラガ			NT		NT	H22	
10		ヒトツメアオゴミムシ			NT		NT	H22	
11		クロサワドロムシ					NT	H22	
12		クロマルハナバチ			NT			H22	
合計	1種	12種	0種	0種	10種	0種	9種		

※記載内容は、国管理区間全域および県管理区間の一部で確認されたものを示す。
※重要種: 下記の資料の掲載種及び貴重または保護すべき種として指定されている種
[文化財]: 「文化財保護法」(昭和 25 年)または「大分県文化財保護条例」(昭和 30 年)に基づく天然記念物
[保存法]: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種)
[環境省]: 環境省 RL 環境省レッドリスト 2020(環境省 2020 年 3 月)
環境省海洋 RL 環境省海洋生物レッドリスト(環境省 2017 年 3 月)
[大分県]: 大分県指定文化財に指定されている天然記念物(大分県 2023 年 3 月)
大分県希少野生動植物の保護に関する条例に指定されている種(大分県 2023 年 10 月)
[大分県RDB]: 大分県レッドデータブックおいた 2022
大分県の絶滅のおそれのある野生生物(大分県 2023 年 3 月)

表 重要種(魚類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1	○	スナヤツメ南方種			VU		EN	H18,H28,R3
2		ニホンウナギ			EN			H7,H23,H28,R3
3		ドジョウ			NT			H18,H23
4		アカザ			VU		VU	H28,R3
5	○	ミナミメダカ			VU			H13,H23,H28,R3
合計	2種	5種	0種	0種	5種	0種	2種	

表 重要種(植物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ヒメコウガイゼキショウ					VU	R3
2		ナガミノツルケマン			NT		NT	R3
3		タコノアシ			NT		EN	H23,R3
4		イヌハギ			NT		VU	H8,H13,H23,R3
5		コギンギシ			NT		VU	R3
6		マメダオシ			EN		DD	H8
7	○	カワヂシャ			NT		NT	R3
8		キセワタ			VU		EN	H8
9		ミゾコウジュ			NT		NT	H23,R3
合計	1種	9種	0種	0種	8種	0種	9種	

表 重要種(両爬哺)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1	○	オオイタサンショウウオ		国内	VU		VU	H17
2		アカハライモリ			NT			R4
3		ニホンイシガメ					NT	H5,H10,H15,H24
4		ニホンスッポン			NT		VU	H24,R4
5		モモジロコウモリ			DD		DD	H24
6		ノレンコウモリ			VU		VU	H24
7		カヤネズミ					NT	H15,H24,R4
合計	1種	7種	0種	1種	5種	0種	6種	

表 重要種(底生動物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		モノアラガイ			NT			H7,H12,H22,H27
2		ヒラマキミズマイマイ			DD			R2
3		クルマヒラマキガイ			VU		VU	R2
4		マシジミ			VU			H7,H12
5		グンバイトンボ			NT			H27
6		キイロサナエ			NT		NT	H7,H17
7		ホンサナエ					CR	H7,H12,H17
8		タベサナエ			NT			H12,H27,R2
9		コオイムシ			NT			H22,R2
10		トゲナベバタムシ			VU		EN	R2
11	○	コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H22,H27
12		マルチビゲンゴロウ			NT		NT	R2
13		キベリマメゲンゴロウ			NT		NT	H17
14		クビボソコガシラミズムシ			DD		NT	R2
合計	1種	14種	0種	0種	13種	0種	8種	

表 重要種(鳥類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		オシドリ			DD		NT	H9
2		アマサギ					NT	H14
3		チュウサギ			NT		NT	H14
4		ヒクイナ			NT		VU	H9,H20
5		シロチドリ			VU		VU	H4
6		ミサゴ			NT		NT	H30
7		ハチクマ			NT		NT	H30
8		ハイタカ			NT		NT	H4,H9,H14,H30
9		オオタカ			NT		VU	H14
10		サシバ			VU		VU	H14
11		ノスリ					NT	H14,H30
12		クマタカ		国内	EN		EN	H14
13		アオバズク				●	VU	H14,H20,H30
14		アカショウビン					VU	H20
15	○	ヤマセミ					NT	H4,H9,H14,H20,H30
16		ハヤブサ		国内	VU		VU	H9,H30
17		ホオアカ					NT	H14,H20
合計	1種	17種	0種	2種	11種	1種	17種	

表 重要種(昆虫類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		アオハダトンボ			NT			H6,H11,H16,H25,R5
2		タベサナエ			NT			R5
3		オグマサナエ			NT			H6
4		ズイムシハナカメムシ			NT		NT	H6
5		キバネアシブトマキバサシガメ					VU	R5
6		ヤホシホソマダラ			NT			R5
7		ツマグロキチョウ			EN		NT	H16,H25
8		キベリマルクビゴミムシ			EN		VU	H11
9		アイヌハンミョウ			NT			H11
10		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H25,R5
11		シマゲンゴロウ			NT		NT	H6,H11
12		キベリマメゲンゴロウ			NT		NT	H16,R5
13		コガムシ			DD			H6,R5
14		ヤマトアシナガバチ			DD			H16,H25,R5
合計	0種	14種	0種	0種	13種	0種	7種	

※記載内容は、国管理区間全域および県管理区間の一部で確認されたものを示す。
※重要種:下記の資料の掲載種及び貴重または保護すべき種として指定されている種
[文化財]:「文化財保護法」(昭和25年)または「大分県文化財保護条例」(昭和30年)に基づく天然記念物
[保存法]:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種)
[環境省]:環境省 RL 環境省レッドリスト 2020(環境省 2020年3月)
環境省海洋 RL 環境省海洋生物レッドリスト(環境省 2017年3月)
[大分県]:大分県指定文化財に指定されている天然記念物(大分県 2023年3月)
大分県希少野生動植物の保護に関する条例に指定されている種(大分県 2023年10月)
[大分県RDB]:大分県レッドデータブックおおいち 2022
大分県の絶滅のおそれのある野生生物(大分県 2023年3月)

表 重要種(魚類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		スナヤツメ南方種			VU		EN	H28
2		ニホンウナギ			EN			H7,H18,H28,R3
3		ドジョウ			NT			H23,H28
4		ミナミメダカ			VU			H23,H28,R3
合計	0種	4種	0種	0種	4種	0種	1種	

※大分川水系のアブラボテは過去の調査記録から判断して国内由来の外來種として扱った(アドバイザーヒアリングより)

表 重要種(植物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		ナガミノツルケマン			NT		NT	R3
2		イヌコリヤナギ					VU	H23
3		カワヂシャ			NT		NT	R3
4	○	ミゾコウジュ			NT		NT	R3
5		ヒロハヤマヨモギ			NT		NT	H8
合計	1種	5種	0種	0種	4種	0種	5種	

表 重要種(底生動物)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		モノアラガイ			NT			H7,H22,H27,R2
2		クルマヒラマキガイ			VU		VU	H22,H27
3		ヒラマキガイモドキ			NT			H22
4		マシジミ			VU			H7,H12
5		キイロサナエ			NT		NT	H7
6		タベサナエ			NT			H27
7		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H17,H22,R2
合計	0種	7種	0種	0種	7種	0種	3種	

※記載内容は、国管理区間全域および県管理区間の一部で確認されたものを示す。
※重要種: 下記の資料の掲載種及び貴重または保護すべき種として指定されている種
[文化財]: 「文化財保護法」(昭和 25 年)または「大分県文化財保護条例」(昭和 30 年)に基づく天然記念物
[保存法]: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種)
[環境省]: 環境省 R.L 環境省レッドリスト 2020(環境省 2020 年 3 月)
環境省海洋 R.L 環境省海洋生物レッドリスト(環境省 2017 年 3 月)
[大分県]: 大分県指定文化財に指定されている天然記念物(大分県 2023 年 3 月)
大分県希少野生動植物の保護に関する条例に指定されている種(大分県 2023 年 10 月)
[大分県RDB]: 大分県レッドデータブックおおいた 2022
大分県の絶滅のおそれのある野生生物(大分県 2023 年 3 月)

表 重要種(両爬哺)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		アカハライモリ			NT			H15
2		ニホンヒキガエル					NT	H5
3		ニホンイシガメ			NT		VU	H15,H24,R4
4		ニホンスッポン			DD		DD	H24,R4
5		ヒバカリ					NT	H5,H24
6		ジネズミ					NT	R4
7		カヤネズミ					NT	H15,H24,R4
合計	0種	7種	0種	0種	3種	0種	6種	

表 重要種(鳥類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1		アマサギ					NT	H30
2		チュウサギ			NT		NT	H9,H30
3		コチドリ					NT	H4
4		オオタカ			NT		VU	H14
5		ノスリ					NT	H14
6		ヤマセミ					NT	H4,H9
7		ハヤブサ		国内	VU		VU	H4,H9
8		ホオアカ					NT	H9,H30
合計	0種	7種	0種	1種	3種	0種	7種	

表 重要種(昆虫類)

No.	本文掲載種	種名	重要種選定基準					確認状況
			文化財	保存法	環境省	大分県	大分県RDB	既往調査
1	○	アオハダトンボ			NT			H16,H25,R5
2		タベサナエ			NT			R5
3		ツマグロキチョウ			EN		NT	H16
4		キベリマルクビゴミムシ			EN		VU	H11
5		コガタノゲンゴロウ			VU		NT	H25,R5
6		シマゲンゴロウ			NT		NT	H6
7		シャーブツゲンゴロウ			NT		NT	H6
8		コセスジダルマガムシ					CR	H16,R5
9		コガムシ			DD			H6,H11,R5
10		ガムシ			NT		NT	H6
11		ヤマトアシナガバチ			DD			H25,R5
合計	1種	11種	0種	0種	10種	0種	7種	

- 動植物の生息地又は生育地の状況や景観、流水の清潔の保持など、8項目の検討により維持流量を設定し、水利流量・流入量を考慮した結果、府内大橋地点における流水の正常な機能を維持するための必要な流量は、概ね6.6m³/s(通年)とし変更しない。
- 水利流量(大分川流域)は、農業用水かんがい面積約8,385ha、水道用水2.311m³/s、発電用水最大90.513m³/s、工業用水0.174m³/sである。
- 府内大橋地点における過去57年間(昭和41年～令和4年)の平均渇水流量は約9.51m³/s、平均低水流量は約13.54m³/sであり、比較的河川流況は良好である。

正常流量の基準地点

基準地点は以下の点を勘案して府内大橋地点とする。

- ①府内大橋地点は、潮位の影響を受けず、大分川本川の流況把握ができる最下流端である。
- ②流量観測が長期的に行われているため、流水の正常な機能を維持するために必要な流量を確実に管理・監視できる。

流況

近年渇水被害は発生しておらず、現況流況で平均渇水流量9.51m³/s、平均低水流量13.54m³/sとなっている。

(単位:m³/s)

流況	大分川 府内大橋 601km²			
	最大値	最小値	平均値	W=1/10
豊水流量	42.38	14.70	25.59	16.72
平水流量	27.74	11.33	17.61	12.76
低水流量	19.92	8.62	13.54	10.12
渇水流量	13.87	4.18	9.51	6.97
統計期間	昭和41年～令和4年の57年間			

維持流量の設定

項目	検討内容・決定根拠等
①動植物の生息地又は生育地の状況及び漁業	代表魚種(アユ、ウグイ、ヨシノボリ類、オイカワ、カワムツ)の生息・産卵に必要な流量を設定
②景観	アンケート調査を踏まえ、良好な景観を確保するのに必要な流量を設定
③流水の清潔の保持	環境基準(BOD75値)の2倍値を満足するために必要な流量を設定
④舟運	過去において船舶の航行に障害は発生していないため必要流量は設定しない
⑤塩害の防止	大分川下流に大分製紙(株)による取水施設があるが過去に被害もないため必要流量は設定しない
⑥河口閉塞の防止	過去に河口閉塞は発生していないため必要流量は設定しない
⑦河川管理施設	対象となる木製の河川管理施設は存在しないため必要流量を設定しない
⑧地下水位の維持	過去に地下水の取水障害は発生していないことから必要流量は設定しない

①動植物の生息地又は生育地の状況及び漁業

◆B区間(区間内に府内大橋あり)必要流量

1/1～ 4/30(非かんがい期、移動) : 6.6m³/s
5/1～ 5/4(非かんがい期、ヨシノボリ産卵) : 6.6m³/s
5/5～ 8/31(かんがい期、ヨシノボリ産卵) : 6.6m³/s
9/1～ 9/30(かんがい期、移動) : 6.6m³/s
10/ 1～10/ 5(かんがい期、アユの産卵) : 6.6m³/s
10/ 6～12/31(非かんがい期、アユ産卵) : 6.6m³/s
・6.8k付近のアユの移動に必要な水深15cmを確保した。

府内大橋(上流) 6.8k

②景観 ◆B区間 府内大橋 6.8k

必要流量: 3.55m³/s
・アンケート調査により、良好な景観を確保する見かけの水面幅と河川幅の割合から流量を設定

フォトモンタージュ府内大橋(1/10渇水)

③流水の清潔の保持 ◆B区間 府内大橋 6.8k

必要流量: 0.96m³/s
・流総計画の将来流出負荷量から渇水時における目標水質を環境基準の2.0倍として、大分川に生息するアユやウグイに対する水質の指標も鑑みて必要な流量を設定

水利流量の設定

・大分川における河川水の利用は農業用水、水道用水、発電用水、工業用水など多岐に渡る。

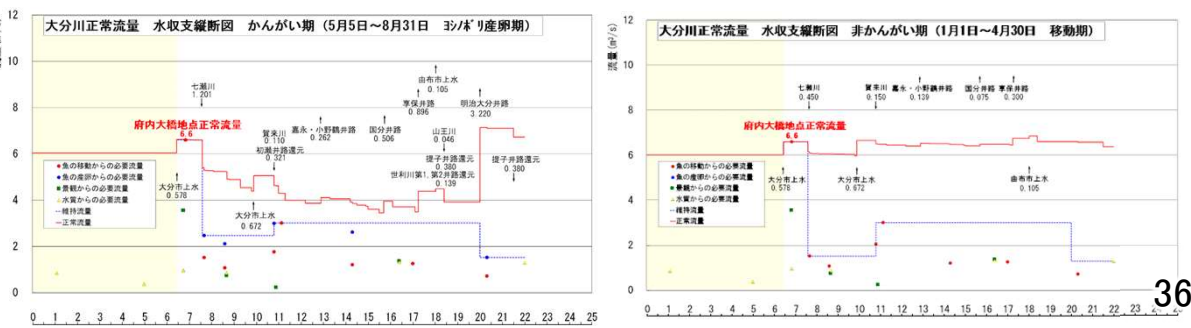
【検討区間内の利水状況】

- ・農業用水許可水利権量: 4.182m³/s
慣行水利権量: 8.760m³/s
- ・水道用水: 1.355m³/s
- ・工業用水: 0.174m³/s

正常流量の設定

府内大橋地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、魚類の生息及び漁業等を考慮して、通年概ね6.6m³/sとする。

代表地点	流域面積(km²)	基本方針(変更)における正常流量
府内大橋	601	概ね6.6m³/s(通年) [1.10m³/s/s100km²]



⑥総合的な土砂管理

総合的な土砂管理 山地領域の状況

- 森林は水源涵養機能や山地災害防止機能等の公益的機能を有しており、この機能の適切な発揮に向け、森林整備センターが森林整備や治山対策を実施。
- 大分県では、50年後のあるべき森林の姿を実現するための方法を示した「次世代の大分森林づくりビジョン」を平成30年に策定し、また令和4年に「大分中部地域森林計画書」を策定し、森林の整備・保全の目標、森林施業、路網整備、保安林、保全施設等に関する目標や基本方針を定めている。
- また、大分川流域で次世代の大分森林づくりモデル林として、組織的な木材生産と広葉樹が自生する森林づくりに向けた長期育成循環施業モデル団地や集約化施業の取組が実施されている。

次世代の大分森林づくりビジョン

H29改訂版

平成30年3月
大分県 農林水産部

大分森林づくりモデル林

、県土の保全や水源のかん養、さらに地球温暖化防止、の安心・安全なくらしに大きな役割を果たしています。林は育成の時代を経て、今まさに利用の時代を迎えてに活用し、将来にわたって、持続的に森林経営が可能ます。経営方法の改善あるいは低コスト化等に向け、先駆的「次世代の大分森林づくりモデル林」として、平成2315カ所選定しました。を通じて、本県の森林が木材生産や公益的機能が十分さわしい森林づくりを進めていきます。

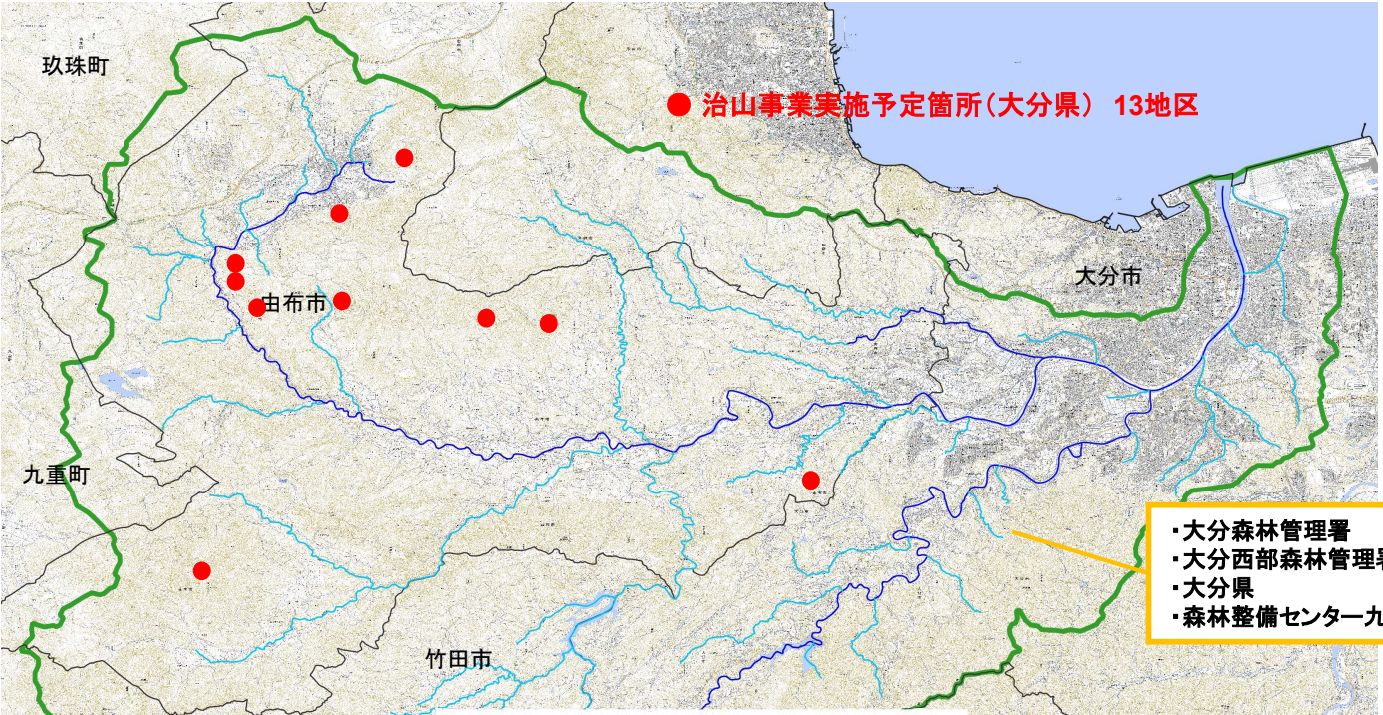
環境林

自然公園や保護林等種の広葉樹林

生産林

山間の広葉樹林・竹林

【次世代の大分森林づくりビジョンより】



- ・大分森林管理署
- ・大分西部森林管理署
- ・大分県
- ・森林整備センター九州整備局

出典：大分県農林水産ポータルサイト「次世代の大分森林づくりモデル林」

治山事業の実施による流木・土砂の流出抑制効果



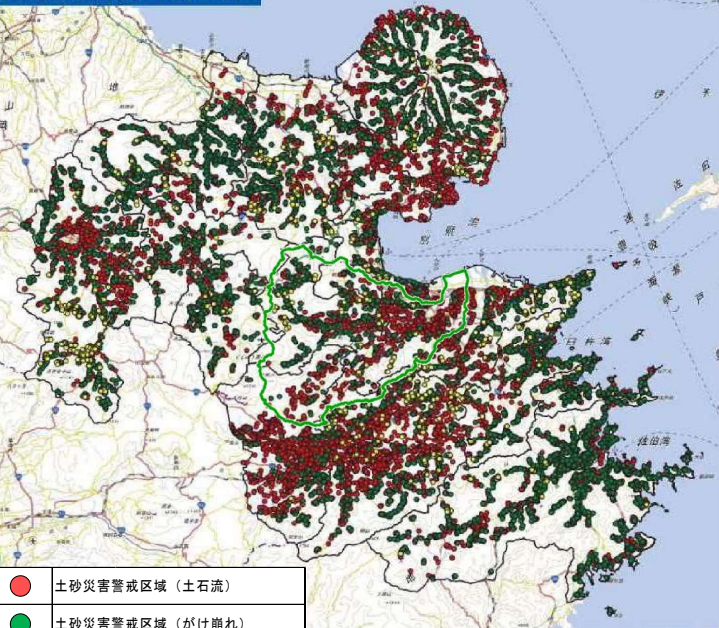
出典：大分県（森林保全課）



出典：大分県農林水産ポータルサイト「次世代の大分森林づくりモデル林」

- 大分川流域内には多数の土砂災害警戒区域(土石流、がけ崩れ、地滑り)が存在しており、大分県では土砂災害発生防止のため急傾斜地崩壊防止施設や砂防施設の整備が実施されている。
- 令和2年7月豪雨等多数の土砂災害が発生しており、大分県では引き続き流木・土砂流出防止のための砂防施設の設置が進められている。

土砂災害警戒区域分布図



●	土砂災害警戒区域 (土石流)
●	土砂災害警戒区域 (がけ崩れ)
●	土砂災害警戒区域 (地滑り)
—	大分川流域

出典：パンフレット「おおいたの砂防」(令和6年度版)

令和7年度の実施
・砂防関係施設の整備

大分川水系流域図



- <凡例>
- ▲ 砂防堰堤等の整備 8箇所
 - 〰 急傾斜地崩壊対策施設の整備 16箇所
 - 地すべり防止施設の整備 2箇所



出典：大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター



令和6年度の実施
砂防設備の整備



令和6年度の実施
砂防堰堤の整備

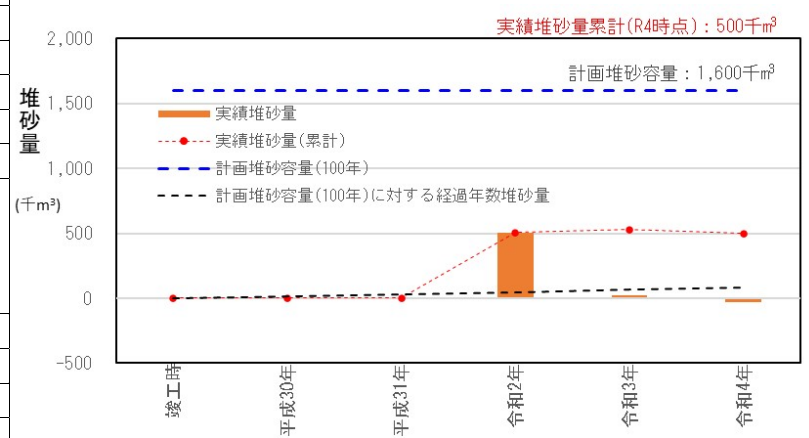
出典：大分県(砂防課)

- 流域には国・県が管理する多目的ダム、発電等を目的とした利水ダムが合わせて8基存在する。
- ななせダムでは、令和2年出水で計画堆砂量を上回る堆砂を確認。
- 芹川ダムでは、計画堆砂量と同じ傾向で堆砂が進行していたが、平成30年以降で計画堆砂量を上回る堆砂を確認。
- 篠原ダムでは、計画堆砂容量を上回る堆砂を確認している。
- このため、引き続き堆砂量のモニタリングを実施し、適切な維持管理を図る。

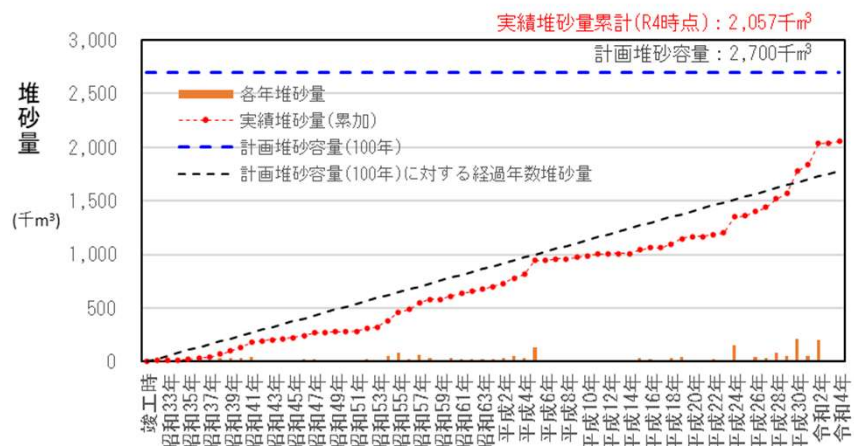
大分川流域内ダムの諸元表		
ダム名	ななせダム	芹川ダム
管理者	国土交通省	大分県
竣工年	2017	1956
河川名	七瀬川	芹川
集水面積 (km ²)	38.0	118.0
ダム形状	ロックフィル	重力式
目的	洪水調節 流水の正常な機能の維持 上水道用水	かんがい用水 発電
堤高 (m)	91.6	52.2
堤長 (m)	497.9	193.0
総貯水容量 (千 m ³)	24,000	27,500
有効貯水容量 (千 m ³)	22,400	22,300
洪水調節容量 (千 m ³)	14,300	7,500
計画堆砂容量 (千 m ³)	1,600	2,700
累積堆砂容量 (千 m ³)	500	2,057

大分川流域内ダムの諸元表		
ダム名	篠原ダム	山下池
管理者	九州電力 (株)	九州電力 (株)
竣工年	1958	1918
河川名	大分川	倉本川
集水面積 (km ²)	409.0	4.4
ダム形状	重力式	アースフィル
目的	発電	発電
堤高 (m)	22.7	18.2
堤長 (m)	96.0	141.8
総貯水容量 (千 m ³)	1,663	1,726
有効貯水容量 (千 m ³)	406	1,701
洪水調節容量 (千 m ³)	—	—
計画堆砂容量 (千 m ³)	152	—
累積堆砂容量 (千 m ³)	702	113

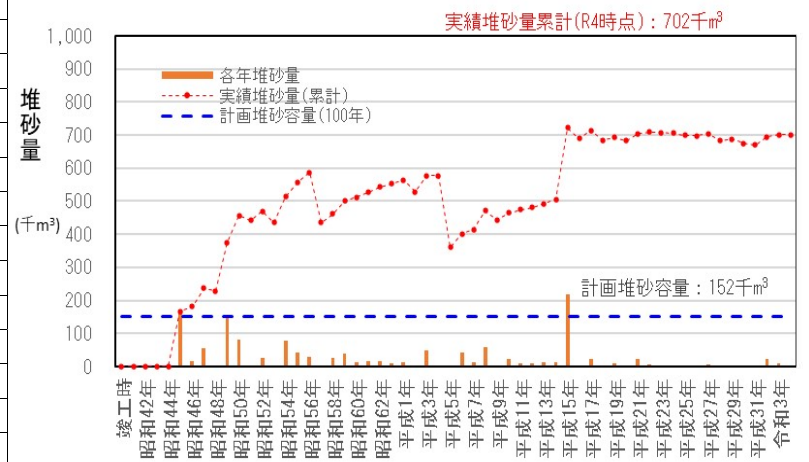
ななせダム(国土交通省)



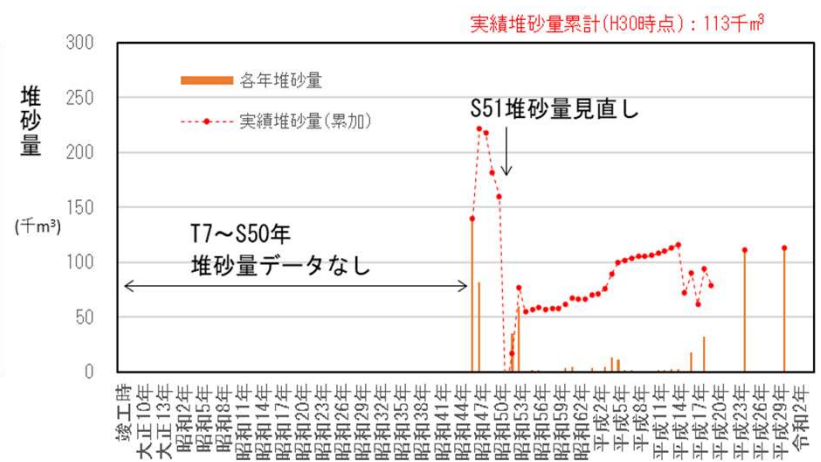
芹川ダム(大分県)



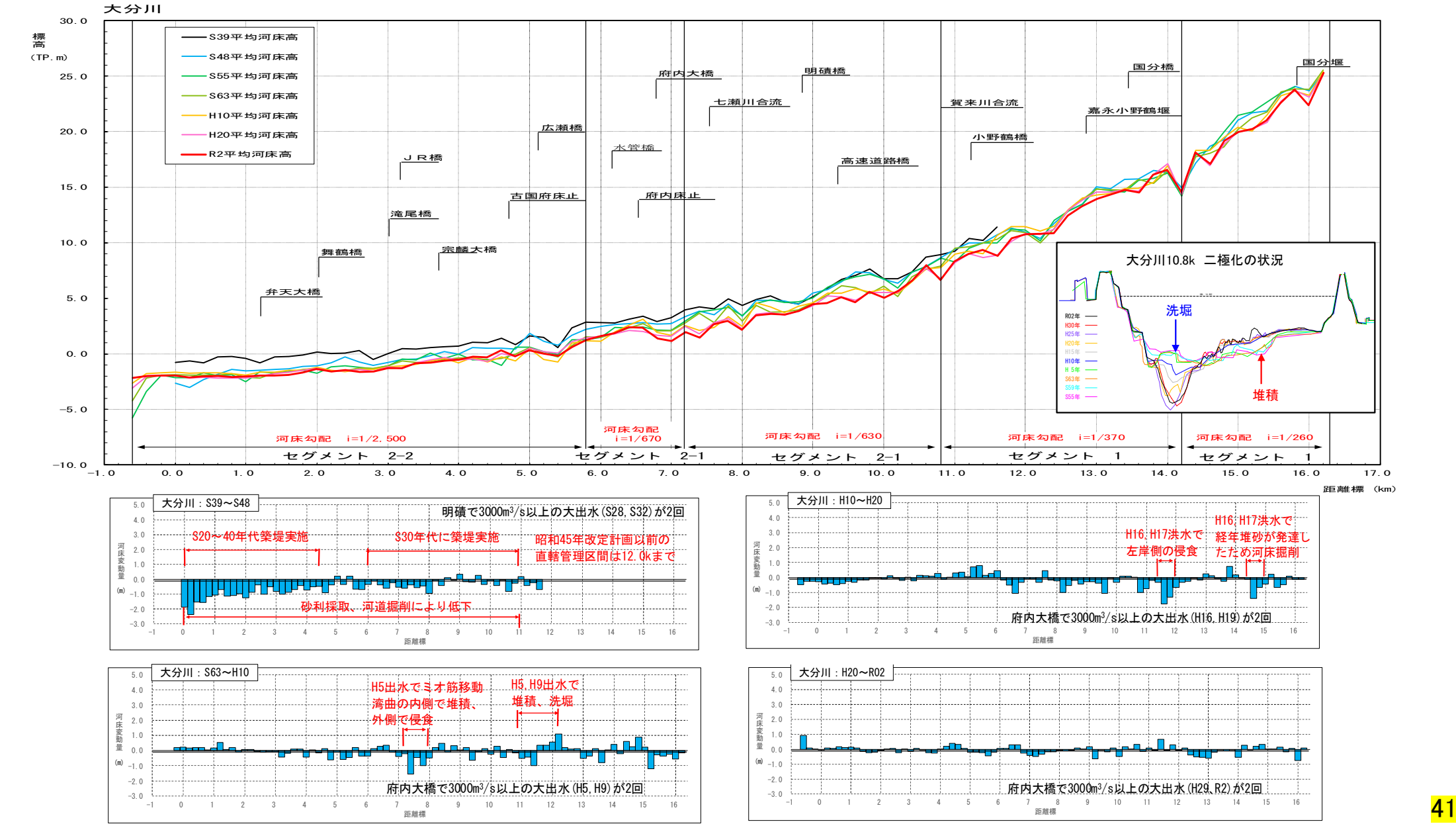
篠原ダム(九州電力)



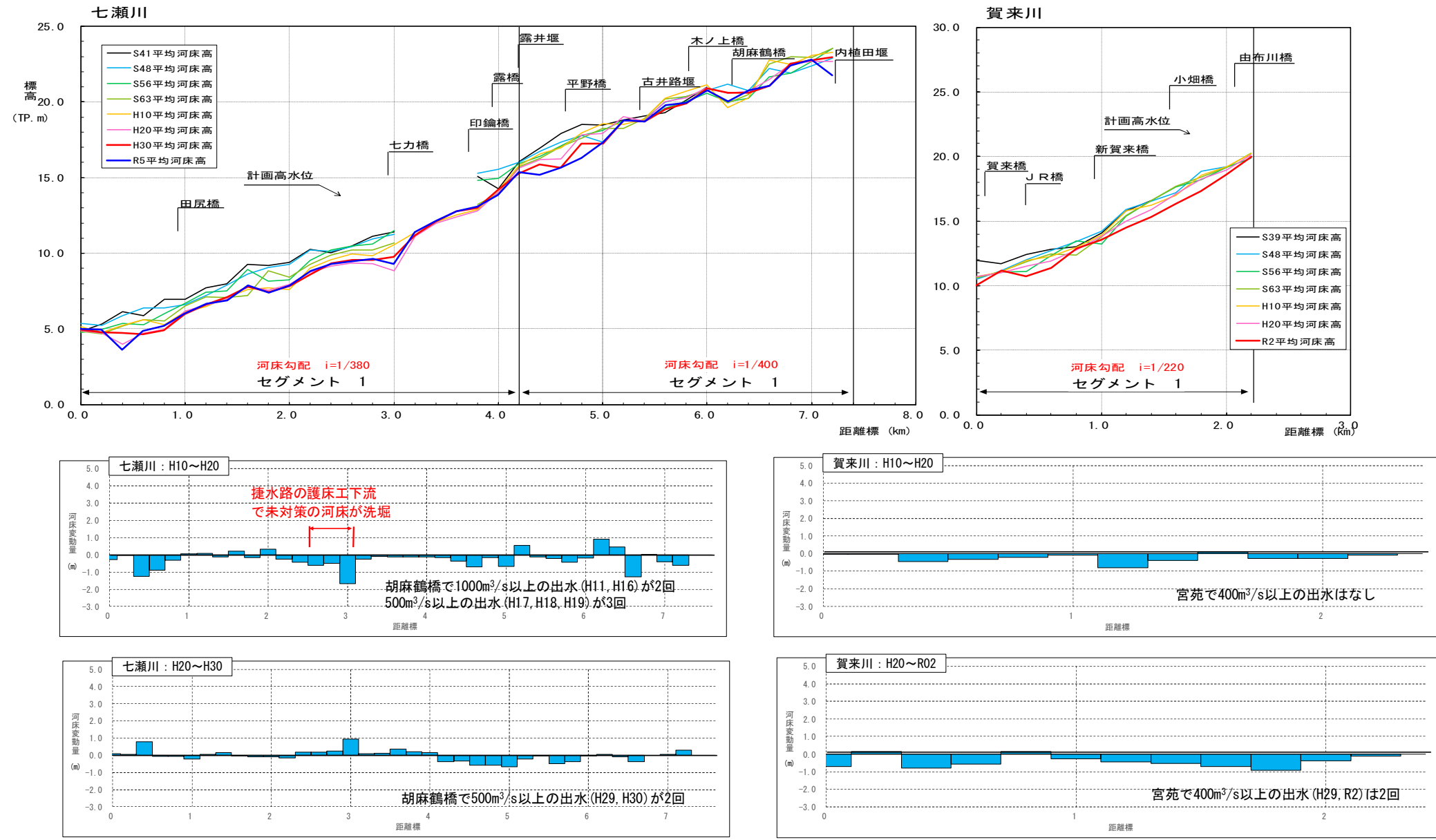
山下池(九州電力)



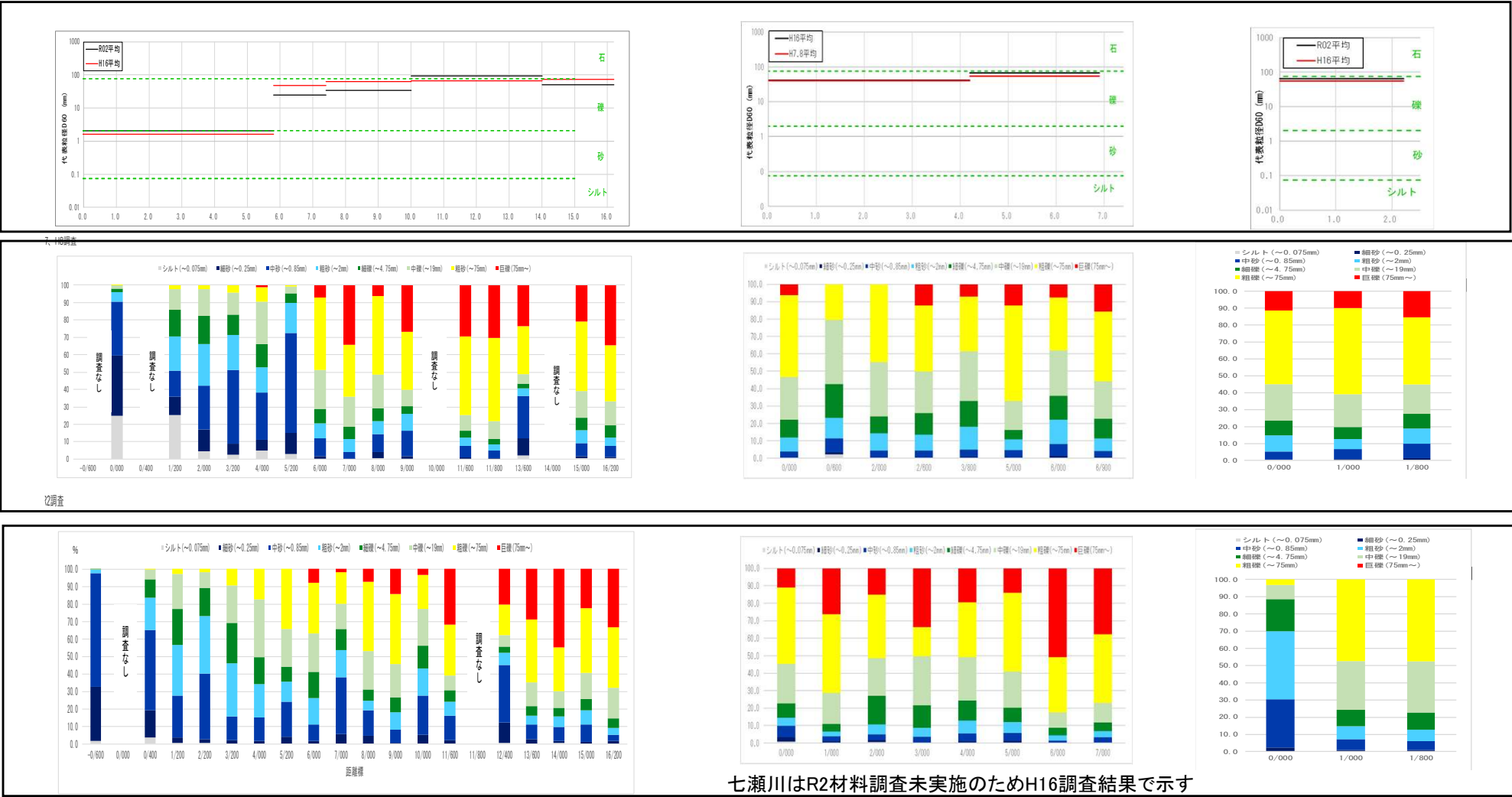
- 昭和から平成初期にかけては、河川改修に伴う築堤掘削(～平成5年)や、砂利採取(～平成10年)、航路浚渫(～平成21年)、等により大分川河口付近では平均河床高が低下していたが、下流部で河川改修が終わり砂利採取や航路浚渫がなくなった近年の大分川河口部は安定傾向である。
- 一方、湾曲部などの水衝部や低水路の急縮等で局所的な洗掘・河岸侵食と堆積(河道の二極化)が生じているため、今後も河道(河床)のモニタリング等を行い、適切な維持管理を図る。



- 七瀬川は3.0km付近で市捷水路の開削が昭和63年～平成8年に実施され、それ以降は安定傾向となっている。
- 賀来川では平成17年～30年まで河岸拡幅・河床掘削等河川改修が行われ、その後は安定傾向となっている。
- 今後も河道モニタリングに努め、適正な維持管理を図る。



- 大分川、賀来川では、基本方針策定から令和2年度調査でセグメント区分内で代表粒径に大きな変化はない。
- 七瀬川は令和2年度調査未実施のため、平成16年度調査結果を示す。
- 湾曲部等で局所的な洗掘・河岸侵食・堆積等が生じているため、河道のモニタリング等を行い適正な維持管理を図る。



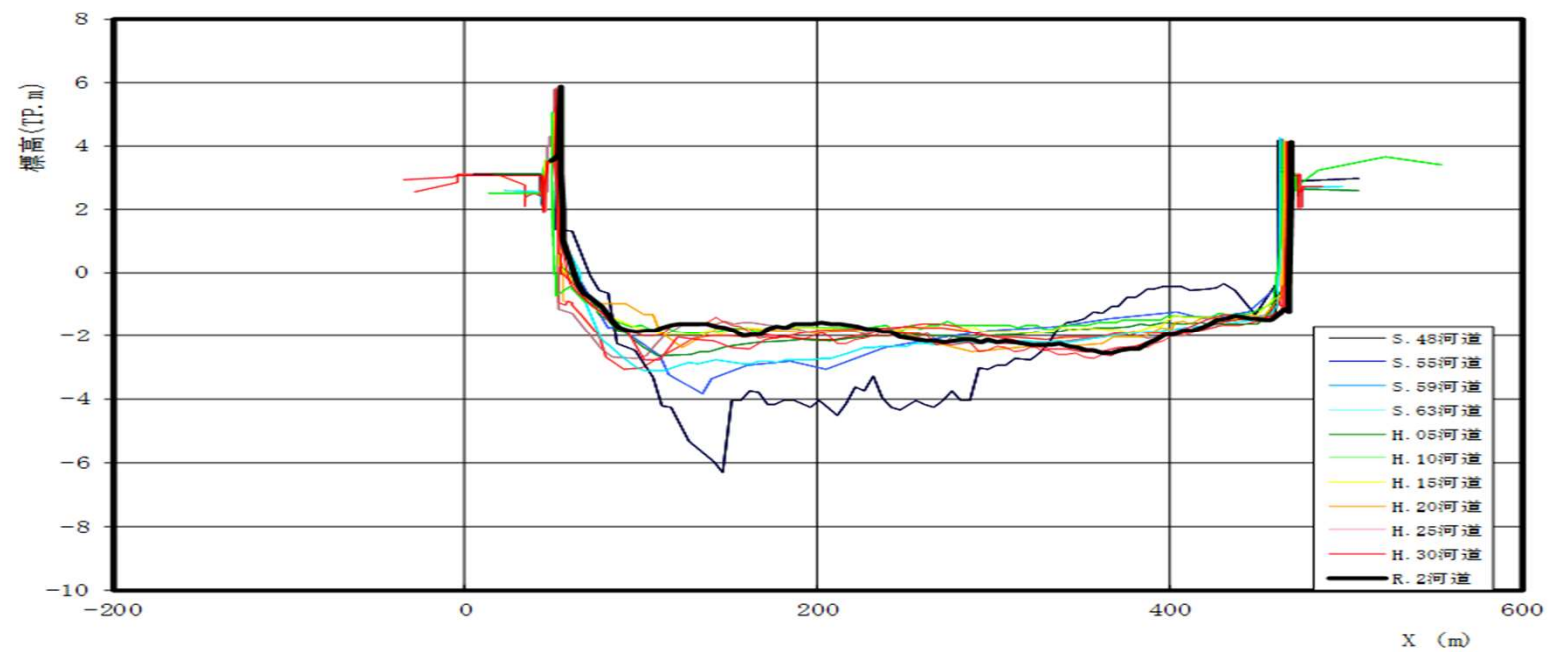
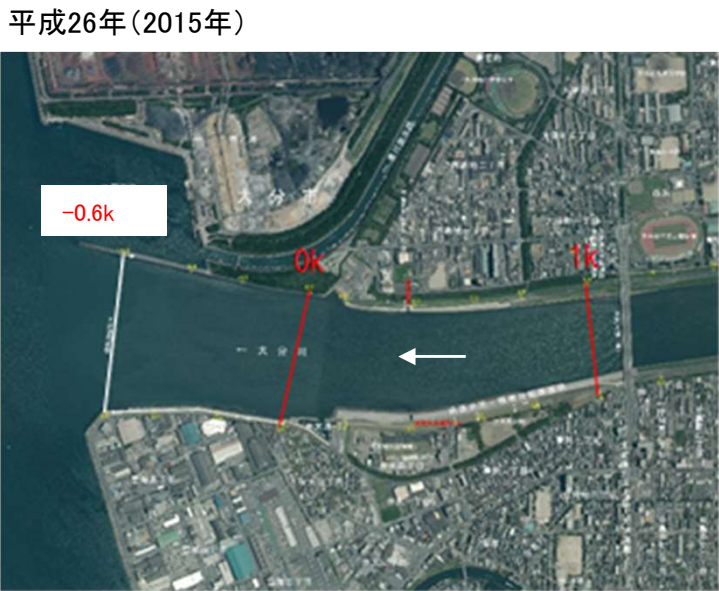
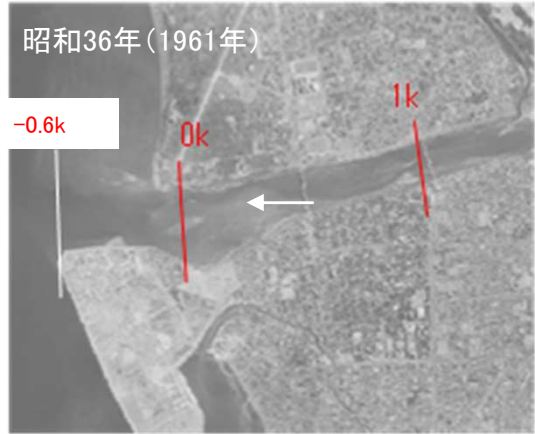
■シルト (~0.075mm) ■細砂 (~0.25mm) ■中砂 (~0.85mm) ■粗砂 (~2mm) ■細礫 (~4.75mm) ■中礫 (~19mm) ■粗礫 (~75mm) ■巨礫 (75mm~)

大分川粒径比率の縦断分布比較図

七瀬川粒径比率の縦断分布比較図

賀来川粒径比率の縦断分布比較図

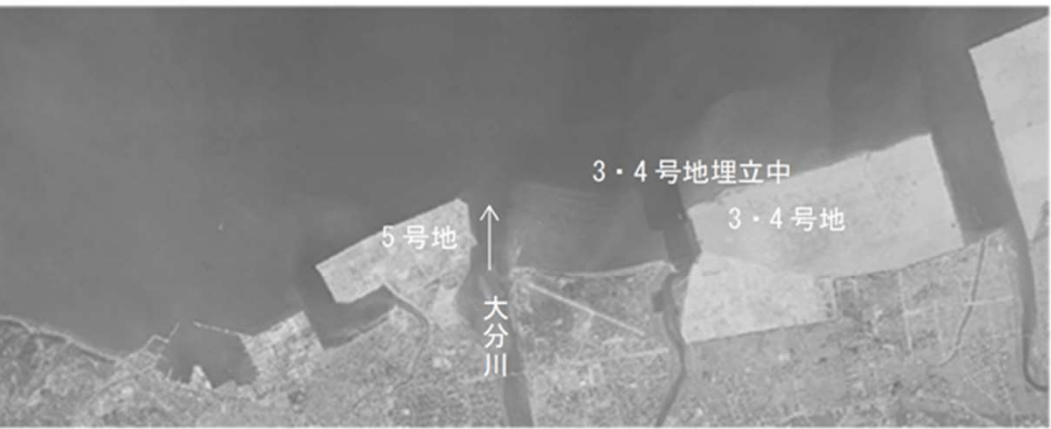
- 河口部は昭和20年～40年代に臨海工業地帯が造成されたが、完成後は河口閉塞等は確認されず安定して河口が維持されている。
- 今後も定期的にモニタリングを行い、河道の状況把握に努める。



総合的な土砂管理 海岸領域の状況

- 大分川の海岸は大分臨海工業地帯として埋立地が広がり人工的な海岸となっており、現在では河口周辺に砂浜等は存在しない。
- 大分川の河口周辺は、大分港海岸として国土交通省直轄事業(港湾局)による海岸保全施設整備事業が進められている。

1961 (昭和36) 年



1975 (昭和50) 年



2007 (H19) 年



2020 (R2) 年



大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業

【事業の目的】

南海トラフ地震・津波や台風による高潮に備えるため、大分港海岸において、海岸保全施設を整備することで、地域の安全・安心を守る。

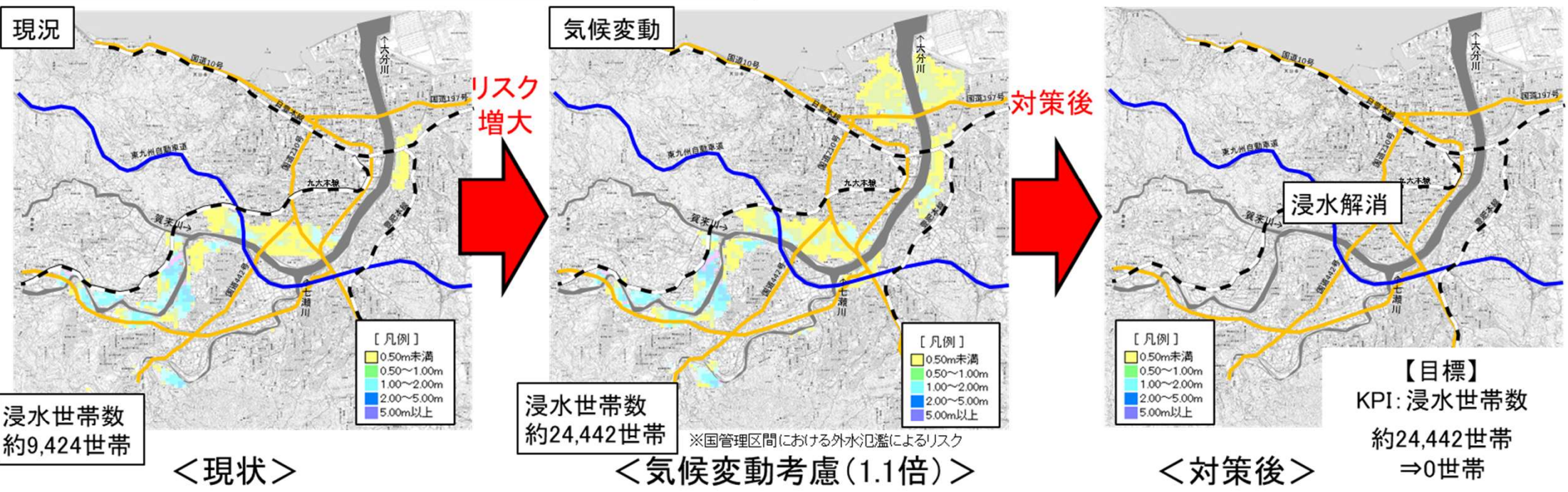
【事業の概要】

- ・整備内容: 海岸保全施設整備 約21km (護岸(改良)、陸閘、胸壁)
- ・事業期間: 平成29年度～令和17年度

⑦流域治水の推進

○ 既往最大流量を記録した昭和28年6月洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、大分川流域では浸水世帯数が約24,442世帯（現況の約2.59倍）になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。

■ 気候変動に伴う水害リスクの増大



➢ 上図は、大分川、七瀬川、賀来川の洪水予報区間について、河川整備計画規模及び気候変動考慮後の外力により浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
➢ 上図は、大分川、七瀬川、賀来川における現況の河道・洪水調節施設の整備状況及び流域治水プロジェクト2.0に位置付けている国が実施する氾濫を防ぐ・減らす対策を実施後の状況を勘案した上で、氾濫した場合の浸水の状況を、シミュレーションにより予測したものです。
➢ なお、このシミュレーションの実施にあたって、国管理区間以外の支川においては、決壊・溢水・越水による氾濫は考慮していません。また、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。

■ 水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標】気候変動による降雨量増加後のS28.6洪水規模に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約24,442世帯の浸水被害を解消	河道掘削 護岸整備 堰改築 既存施設の有効活用検討	概ね30年
	県・市町村	雨水貯留機能の拡大	水田の貯留機能向上の推進	—
	大分市	内水氾濫の軽減	住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助の推進・強化	概ね5年

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
被害対象を減らす	大分県	防災まちづくり	土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実	—
		住民避難の促進	洪水予測の高度化	概ね5年
被害の軽減・早期復旧・復興	国	操作の確実性による浸水被害の軽減	河川管理施設の遠隔化	—
	大分県	避難体制等の強化	ため池の管理・監視体制の強化	—
	大分市	住民避難の促進	浸水シミュレーションによる浸水想定区域図の策定 内水ハザードマップの改訂	—

○ 既往最大流量を記録した昭和28年6月洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を安全に流下させることを目指す。

氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞ ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策(河道掘削、護岸整備、堤防整備、堰改築、橋梁架替等) ○流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞ ・住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助の推進・強化(大分市) ○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞ ・流域流木対策の推進 ・土砂・洪水氾濫対策の推進 ・水田の貯留機能向上の推進		○流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞ ・内外水一体型のリスクマップの作成 ・ため池の管理・監視体制の強化(水位計・監視カメラの設置) ・防災気象情報の周知・啓発 ・浸水シミュレーションによる浸水想定区域図の策定(大分市) ・内水ハザードマップの改訂(大分市) ・雨水管理総合計画の策定(大分市) ・防災行政無線、防災ラジオの有効活用(由布市)
○既存ストックの徹底活用 ＜具体の取組＞ ・既存施設の有効活用検討	○土砂災害防止法に基づく警戒避難体制づくりの推進 ＜具体の取組＞ ・土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実	○インフラDX等の新技術の活用 ＜具体の取組＞ ・洪水予測の高度化 ・河川管理施設の遠隔化 ・三次元管内図の整備 ・報道機関への水位及び画像情報の提供 ・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの公開